



Hewlett Packard
Enterprise

HP Smart Update Manager CLI ガイ ド バージョン 7.5.1

摘要

このガイドでは、HP SUM CLI モードを使用して、ProLiant および Integrity サーバーにファームウェアアップデートを適用し、ProLiant サーバーにソフトウェアアップデートを適用する方法について説明します。このガイドは、Microsoft Windows、Windows Server、Linux、Smart コンポーネント、HP-UX、VMware の構成および操作、ならびにアップデートの実行に伴うデータ消失の危険性について理解している担当者を対象にしています。

© Copyright 2014, 2016 Hewlett Packard Enterprise Development LP

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ（Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items）は、ベンダー標準の商業用使用許諾のもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

商標

Microsoft®、Windows®、および Windows Server® は、Microsoft Corporation の商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

目次

1 HP SUM CLI について.....	5
HP SUM コマンドラインオプションについて.....	5
HP SUM CLI モード.....	5
アップデートのスケジュール.....	5
リモートノードの Linux および HP-UX root 認証情報の使用.....	5
Linux および HP-UX の sudo 認証情報を使用するための前提条件.....	6
SSH キーファイルと root 認証情報の使用.....	6
2 HP SUM の CLI コマンドと入力ファイルコマンドの概要.....	8
コマンドライン構文.....	8
コマンドラインの説明.....	8
入力ファイルの概要.....	9
入力ファイルのセクション.....	9
3 HP SUM CLI コマンドタスクの例.....	11
CLI コマンドの例について.....	11
入力ファイルコマンドの発行.....	11
ローカルホストの更新.....	11
リモートノードの更新.....	12
1つのベースラインでの2つのノードのアップデート.....	12
ノード上のソフトウェアのみの更新.....	13
ノード上のファームウェアのみの更新.....	14
ノードへの最新コンポーネントの展開.....	14
ノード上での旧バージョンのコンポーネントの強制的な展開.....	14
2つのソフトウェアコンポーネントの展開.....	15
sudo を使用したリモートの Linux ノードの更新.....	15
Superdome 2/IX パーティションのアップデート.....	16
スーパーユーザーの認証情報を使用したノードの更新.....	16
SSH キーを使用したノードのアップデート.....	18
4 CLI のパラメーター.....	20
管理エージェントインストールのパラメーター.....	20
HP SUM CLI パラメーター.....	21
ヘルプ.....	21
インストールパラメーター.....	22
エラーを無視するパラメーター.....	27
再起動パラメーター.....	29
実行パラメーターのテスト.....	30
ノードパラメーター.....	30
ログファイルのパラメーター.....	38
レポートパラメーター.....	38
入力ファイルのパラメーター.....	41
Superdome 2/IX サーバーのコマンド.....	41
リターンコード.....	42
Windows Smart コンポーネントのリターンコード.....	43
Linux Smart コンポーネントのリターンコードとファームウェア RPM のリターンコード.....	43
Linux ソフトウェア RPM のリターンコード.....	44
VMware ESXi Smart コンポーネントのリターンコード.....	44
5 入力ファイルのパラメーターを使用した CLI.....	45
入力ファイルにおけるコンポーネント固有の構成.....	45
入力ファイルでのコンポーネントの構成.....	46
コンポーネント cp021995.exe の構成.....	46
コンポーネント cp020718.exe の構成.....	47

コンポーネント cp020347.exe の構成.....	47
コンポーネント hpsmh-linux-x86 の構成.....	48
コンポーネント hpsnmpagent-rhel5-x86 の構成.....	49
入力ファイルのエンコードについて.....	50
エラーのレポート.....	50
入力ファイルのパラメーター.....	50
SDR からの HP SUM およびコンポーネントのダウンロード.....	60
6 トラブルシューティング.....	61
ログファイルの収集.....	61
sudo 認証情報を使用するときに HP SUM が応答しない.....	64
インベントリの実行中に HP SUM が応答しない.....	64
ノードでコマンド open_firewall が動作しない.....	64
認証情報が誤っているかどうかを HP SUM で示されない.....	65
HP SUM にドライブの空き容量が 0 であると表示される.....	65
レポートが生成されない.....	65
HP SUM がコンポーネントを展開しない.....	66
7 サポートと他のリソース.....	67
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	67
アップデートへのアクセス.....	67
Web サイト.....	68
リモートサポート（HPE 通報サービス）.....	68
用語集.....	69
索引.....	70

1 HP SUM CLI について

HP SUM コマンドラインオプションについて

HP SUM の CLI モードと入力ファイルモードを使用して、ローカルおよびリモートのノードにベースラインからのアップデートを展開できます。CLI モードでは、1つのコマンドラインにすべてのパラメーターを追加し、ユーザーが操作することなく複数のノードでシーケンス全体を実行します。この方法では、`silent` コマンドが必要です。この方法を使用して1つまたは複数のノードを更新できます。詳しくは、「[HP SUM CLI パラメーター](#)」(21 ページ)を参照してください。

入力ファイルモードを使用してすべてのパラメーターを1つのテキストファイルに追加し、このテキストファイルの名前を `inputfile` コマンドのパラメーターとして指定して、HP SUM を呼び出します。この方法では、`silent` コマンドが必要です。入力ファイルの方法を使用すると、多数のノードを指定して更新できます。詳しくは、「[入力ファイルのパラメーターを使用した CLI](#)」(45 ページ)を参照してください。

HP SUM の CLI モードと入力ファイルモードは、プロセス指向のツールです。HP SUM はコマンドを終了した後、その設定や結果を保存しません。いくつかの手順を実行し、その作業を後のために保存する必要がある場合は、GUI または対話式 CLI モードを使用します。GUI または対話式 CLI モードで HP SUM を使用する方法について詳しくは、<http://www.hpe.com/info/hpsum/documentation> にある『HP Smart Update Manager ユーザーガイド』を参照してください。

HP SUM CLI モード

使用しているサーバー環境に最も適した HP SUM の CLI モードを選択してください。各 CLI モードの利点を以下に示します。

CLI

ノード数：1~3

長所：

- 1つのコマンドでノードに対するすべての指示を与えます。

入力ファイル CLI

ノード数：1~50

長所：

- ベースラインとノードのすべての情報が含まれているファイルを作成します。
- 後で使用するためにファイルを保存します。
- 入力ファイルを呼び出す CLI コマンドを発行します。

アップデートのスケジュール

標準のオペレーティングシステムツールを使用して、入力ファイルまたは CLI コマンドの実行スケジュールを設定します。たとえば、Windows ではタスクスケジューラを使用し、Linux システムでは `cron` を使用します。必ず、コマンドに `s` (サイレント) パラメーターを含めるようにしてください。タスクのスケジュールについて詳しくは、オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

リモートノードの Linux および HP-UX root 認証情報の使用

root 認証情報と `sudo` アクセス権を持つユーザーを指定するか、リモートノードの root 以外の認証情報と root 認証情報を指定することができます。

Linux および HP-UX の sudo 認証情報を使用するための前提条件

- 次のいずれかを指定します。
 - ユーザー名とパスワード
 - ユーザー名と SSH キーファイルパス (PEM 形式)
- sudo ユーザーの場合、`/etc/sudoers` ファイルにユーザーを追加します。以下に、各ユーザーの権限とファイルでの指定を示します。
 - ユーザー：Root
権限：ALL=(ALL)
指定：ALL
 - ユーザー：Sudo_user
権限：ALL
指定：ALL
- sudo コマンドの実行時にシステムが root ユーザーのパスワードではなく sudo ユーザーのパスワードを求めるように、`/etc/sudoers` ファイルのエントリを編集します。
- 以下に、`/etc/sudoers` でコメント化する特権、または削除する権限を示します。
 - ユーザー：All
権限：ALL
指定：ALL

⚠ 警告! このオプションは必ず `Defaults targetpw` を指定して使用してください。

- スーパーユーザーの機能を使用するには、ユーザーをすべての root 特権を持つスーパーユーザーとして構成します。また、root ユーザーとともに root 以外のユーザーを使用してコンポーネントをアップデートすることもできます。
- sudo と組み合わせてログイン認証情報として SSH キーを使用するときは、`/etc/sudoers` ファイルのエントリを次のように編集してシステムがユーザーパスワードを求めないようにします。
 - ユーザー：sudo_user
権限：ALL
指定：NOPASSWD:ALL

SSH キーファイルと root 認証情報の使用

HP SUM では、パスワードを使って、あるいは SSH キーを指定してログインすることができます。

1. HP SUM を実行しているノードで、`ssh-keygen -t rsa` と入力します。また、HP SUM は、DSA 暗号化キー形式をサポートしています。DSA 暗号化キーを作成するには、`ssh-keygen -t dsa` と入力します。
パスフレーズはオプションです。
2. キーをディレクトリ `.ssh /id_rsa.pub` に保存します。
プライベートキーが PEM 形式であることを確認するために、キーを開いてキーの最上部で次のテキストを確認します。

```
----- BEGIN RSA PRIVATE KEY -----
```

3. 必要に応じて、更新するノードで .ssh ディレクトリを root レベルで作成します。このディレクトリのアクセス権限レベルを 700 に設定します。
4. 更新するノードに .ssh/authorized_keysfile ファイルがあるかどうかを調べます。このファイルがない場合は、作成するが付加します。authorized_keys ファイルに対するアクセス権限を 640 に設定します。

注記: このファイルを付加すると、より多くのユーザーにプライベートキーを使用する権限が与えられます。

5. ホストノードの .ssh/id_rsa.pub の内容をコピーして、リモートノードの .ssh/authorized_keysfile に貼り付けます。
6. ホストノードと更新するノードの間の SSH パスを開きます。
 1. ssh root@10.0.0.1 と入力します。これによりシェルパスが開きます。
 2. ssh root@10.0.0.1 uname と入力します。これによりコマンドが実行されて、戻ります。
7. HP SUM は id_rsa (プライベートキーファイル) にアクセスする必要がある、パスフレーズを作成した場合はそのパスフレーズが必要になります。

注記: 他のアプリケーションで PEM 形式のパブリックキーが必要な場合は、ssh-keygen -e -f id_rsa.pub > id_rsa_pub.pem と入力して変換できます。キーを開いて、----- BEGIN SSH2 PUBLIC KEY ----- で PEM 形式を調べます。

Windows システムでプライベートキーを作成するには、PuTTY や PuTTY Key Generator (PuTTYGen) などのアプリケーションを使用します。詳しくは、<https://www.digitalocean.com/community/tutorials/how-to-create-ssh-keys-with-putty-to-connect-to-a-vps> を参照してください。

ファイルを PEM 形式にエクスポートするには、**[Conversion]+[Export OpenSSH key]** を選択します。

2 HP SUM の CLI コマンドと入力ファイルコマンドの概要

コマンドライン構文

HP SUM の CLI モードでは、1つのコマンドラインにすべてのパラメーターを入力する必要があります。**Enter** キーを押すと、HP SUM はシーケンス全体を実行します。すべての CLI コマンドの実行には `/s` (Windows) または `--s` (Linux) が必要です。

- ❶ **重要:** コマンドラインモードは、ダブルバイト文字セットをサポートしていません。ダブルバイト文字セットを使用してコマンドラインに入力されたコマンドは、正しく表示されません。

HP SUM の一般的なコマンドライン構文は、以下のとおりです。

Windows では、各引数の前にスラッシュ (`/`) を付けます。Linux では、各引数の前に 2 つのハイフン (`--`) を付けます。

```
hpsum --s --use_location <baseline_directory> --r
```

```
hpsum /s /use_location <baseline_directory> /r
```

注記: OA のある HP SUM では、ログインにユーザー ID とパスワードが必要です。ユーザー ID は、管理者相当の ID を使用する必要があります。オペレーターやユーザーレベルの ID は使用できません。

コマンドラインの説明

`hpsum`

HP SUM を起動します。

`--s` (Linux) `/s` (Windows)

CLI モードを開始します。その他のインストールパラメーターについては、「[インストールパラメーター](#)」(22 ページ)を参照してください。

`--target` (Linux) `/target` (Windows)

ターゲットノードの詳細を指定します。

その他のノードパラメーターについては、「[ノードパラメーター](#)」(30 ページ)を参照してください。

`--on_failed_dependency` (Linux) `/on_failed_dependency` (Windows)

失敗した依存状態がノードで検出された場合に HP SUM に何を実行するかを指示します。

エラーを無視するその他のパラメーターについては、「[エラーを無視するパラメーター](#)」(27 ページ)を参照してください。

`--r` (Linux) `/r` (Windows)

更新を展開した後にノードを再起動するかどうかを HP SUM に指示します。

その他の再起動パラメーターについては、「[再起動パラメーター](#)」(29 ページ)を参照してください。

`--v` (Linux) `/v` (Windows)

冗長ログの設定を使用するように HP SUM に指示します。

その他のログパラメーターについては、「[ログファイルのパラメーター](#)」(38 ページ)を参照してください。

`--report` (Linux) `/report` (Window)

HP SUM のレポートを生成します。

その他のレポートパラメーターについては、「[レポートパラメーター](#)」(38 ページ)を参照してください。

--update_type (Linux) /update_type (Windows)

Superdome 2/X エンクロージャーではいくつかの更新タイプ (ALL、COMPLEX、PARTITIONS) が提供されます。

詳しくは、「[Superdome 2/X サーバーのコマンド](#)」(41 ページ)を参照してください。

--h (Linux) /h (Windows)

HP SUM CLI のヘルプファイルを起動します。

入力ファイルの概要

入力ファイルには、構成の詳細とターゲットノード情報を含めます。アップデート用のユーザー認証情報とリモートホスト情報を追加できます。

- ① **重要:** 入力ファイルはプレーンテキストファイルです。セキュリティを強化するため、認証情報はファイルから省略し、コマンドラインを使用して認証情報を HP SUM に渡してください。コマンドラインでユーザー認証情報を指定する場合は、入力ファイル内のすべてのノードで同じユーザー ID とパスワードを使用する必要があります。

入力ファイルで HP SUM CLI を使用すると、複数のノード、個々のノード、ノードのグループ (ProLiant サーバーと Integrity サーバーおよびオプション) のいずれかを 1 回の操作でアップデートする .txt ファイルスクリプトを利用できます。入力ファイルを作成するには、任意のプレーンテキストエディターを使用します。これはマークアップ言語と似ており、ヘッダーとトレーラーを一致させる必要があります。リストの値を取ることができるパラメーターには、カンマをリストの区切り文字として使用します。

スクリプトファイルを作成したら、inputfile <filename> パラメーターとして HP SUM コマンドラインにスクリプトファイルを追加します。たとえば入力ファイル hpsum.in を実行するには、次のように入力します。

```
hpsum --inputfile hpsum.in (Linux) または hpsum /inputfile hpsum.in (Windows)
```

入力ファイルが HP SUM 実行可能ファイルと同じ場所に保存されていない場合は、そのファイルの場所へのフルパスを追加できます。スペースの入っているパスを指定するには、<filename> フィールドを二重引用符で囲みます。

注記: ファイアウォールポートを開くための入力ファイルパラメーターはありません。ファイアウォールを開く場合は、パラメーターとして --open firewall (Linux) または /open_firewall (Windows) を、入力ファイルを呼び出すコマンドに追加します。次に例を示します。

```
hpsum --inputfile hpsum.in --open_firewall /s (Linux) または hpsum /inputfile hpsum.in -/open_firewall /s (Windows)
```

入力ファイルを編集せずに入力ファイルを変更するには、入力ファイルにすべてのコマンドラインオプションを使用します。コマンドラインオプションは、入力ファイル内のコマンドよりも優先されます。

入力ファイルのセクション

入力ファイルには、構成およびターゲット情報セクションが含まれています。入力ファイルでは、テキストの 1 行ごとに 1 つのパラメーターがサポートされます。

```
#Input file sample
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
SOURCEPATH = C:\SPP
FORCEALL = YES
```

```
REBOOTALLOWED = YES
REBOOTDELAY = 30
REBOOTMESSAGE = "Install complete, server will reboot in 30 seconds"
[TARGETS]
HOST = 192.168.1.1
UID = user
PWD = password
[END]
[TARGETS]
HOST = 192.168.1.2
HOST = 192.168.1.2
UID = user2
PWD = password2
[END]
```

構成セクション

このセクションでは、入力ファイルのすべてのパラメーターを割り当てます。構成セクションの終了部から TARGETS セクションを開始します。

シャープ (#) 記号で始まる行は注記です。1 行に複数のシャープ記号 (#) を使用することはできません。

```
#Input file sample
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDepedencies
SKIPTARGET = NO
SOURCEPATH = C:\SPP
FORCEALL = YES
REBOOTALLOWED = YES
REBOOTDELAY = 30
REBOOTMESSAGE = "Install complete, server will reboot in 30 seconds"
```

ターゲットセクション

このセクションは、アップデートする各ノードを定義します。

```
[TARGETS]
HOST = 192.168.1.1
UID = user
PWD = password
[END]
```

ターゲットセクション

```
[TARGETS_GROUP_HOME]
HOST = 192.168.1.2
HOST = 192.168.1.2
UID = user2
PWD = password2
[END]
```

複数のノードで同じユーザー認証情報を使用する場合、同じ TARGETS セクションにすべてのノードをリストします。

[TARGETS] タイトルにテキストを追加して、ターゲットの詳細を示すことができます。

3 HP SUM CLI コマンドタスクの例

CLI コマンドの例について

次のタスクは、CLI コマンドおよび入力ファイルを構成する方法の例を示します。使用できるパラメーターについて詳しくは、「[CLI のパラメーター](#)」(20 ページ)および「[入力ファイルのパラメーターを使用した CLI](#)」(45 ページ)を参照してください。

入力ファイルコマンドの発行

1. コマンドラインウィンドウを開きます。
2. HP SUM が配置されているディレクトリに移動します。
3. 使用しているオペレーティングシステムに応じて、次のコマンドを入力します。

- `./hpsum --inputfile <path:/inputfile.txt>` (Linux)
- `hpsum /inputfile <path:\inputfile.txt>` (Windows)

注記: 入力ファイルにパラメーター `SILENT = YES` が含まれていない場合は、CLI に `s` (サイレント) パラメーターを含めます。サイレントパラメーターを指定しない場合、HP SUM は入力ファイルを処理できません。

ローカルホストの更新

次の例では、ローカルホストにベースライン内のすべての更新を適用します。

CLI モードで HP SUM と同じディレクトリにあるベースラインを使用する

- Linux : `./hpsum --silent`
- Windows : `hpsum /silent`

CLI モードで HP SUM と異なるディレクトリにあるベースラインを使用する

- Linux : `./hpsum --silent --use_location <directorypath>`
- Windows : `hpsum /silent /use_location <directorypath>`

入力ファイルモードで HP SUM と同じディレクトリにあるベースラインを使用する

```
SILENT = YES
[TARGETS]
HOST = localhost
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

入力ファイルモードで HP SUM と異なるディレクトリにあるベースラインを使用する

```
SILENT = YES
SOURCEPATH = <baseline_path>
[TARGETS]
HOST = localhost
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

リモートノードの更新

次の例では、リモートノードにベースライン内のすべての更新を適用します。

CLIモードでHP SUMを実行しているディレクトリと同じディレクトリからベースラインを使用する

- **Linux** : `./hpsum --s --target <ip_address> --targettype <type> --user <userid> --passwd <password>`
- **Windows** : `hpsum /s /target <ip_address> /targettype <type> /user <userid> /passwd <password>`

CLIモードでHP SUMと異なるディレクトリにあるベースラインを使用する

- **Linux** : `./hpsum --s --target <ip_address> --targettype <type> --user <userid> --passwd <password> --use_location <directorypath>`
- **Windows** : `hpsum /s /target <ip_address> /targettype <type> /user <userid> /passwd <password> /use_location <directorypath>`

入力ファイルモードでHP SUMを実行しているディレクトリと同じディレクトリからベースラインを使用する

```
SILENT = YES
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
TARGETTYPE = <TYPE>
[TARGETS]
HOST = <node_ip_address>
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

入力ファイルモードでHP SUMと異なるディレクトリにあるベースラインを使用する

```
SILENT = YES
SOURCEPATH = <baseline_directory>
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
TARGETTYPE = <TYPE>
[TARGETS]
HOST = <node_ip_address>
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

1つのベースラインでの2つのノードのアップデート

CLIモードで2つのノードにベースライン内のすべてのアップデートを適用する

- **Linux** : `./hpsum --s --target <ip_address_1> --targettype <type_1> --user <userid_1> --passwd <password_1> --target <ip_address_2> --user <userid_2> --passwd <password_2>`
- **Windows** : `hpsum /s /target <ip_address_1> /targettype <type_1> /user <userid_1> /passwd <password_1> /target <target_2> /user <userid_2> /passwd <password_2>`

注記: これらの例は、HP SUM を実行しているディレクトリと同じディレクトリにあるベースラインを使用します。別のベースラインを使用する場合は、そのベースラインのディレクトリパスを指定した次のコマンドを含めます。

```
/use_location <baseline_directory_path>
```

入力ファイルモードで2つのノードにベースライン内のすべてのアップデートを適用する

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
[TARGETS]
HOST = <ipaddress_1>
TARGETTYPE = <type_1>
UID = <userid_1>
PWD = <password_1>
[END]
[TARGETS]
HOST = <ipaddress_2>
TARGETTYPE = <type_2>
UID = <userid_2>
PWD = <password_2>
[END]
```

注記: 両方のノードで同じユーザー認証情報を使用する場合、それらのノードにはユーザー認証情報を1回指定するだけで済みます。2番目の TARGET エントリーを作成する代わりに、最初のノードエントリーに2番目のノードのIPアドレスを入力します。例：

```
[TARGETS]
HOST = <ipaddress_1>
HOST = <ipaddress_2>
TARGETTYPE = <type_1>
UID = <userid_1>
PWD = <password_1>
[END]
```

ノード上のソフトウェアのみの更新

これらの例を使用すると、HP SUM はリモートノード上のソフトウェアのみを更新します。

CLIモードでHP SUMと同じディレクトリにあるベースラインから1つのノードのソフトウェアをアップデートする

- **Linux** : `./hpsum --s --target <ip_address> --user <userid> --passwd <password> --softwareonly`
 - **Windows** : `hpsum /s /target <ip_address> /user <userid> /passwd <password> /softwareonly`
-

注記: 別のベースラインを使用する場合は、次のコマンドを含めます。

```
--use_location <baseline_directory> (Linux)
```

```
/use_location <baseline_directory> (Windows)
```

入力ファイルモードで HP SUM と同じディレクトリにあるベースラインから 1 つのノードのソフトウェアをアップデートする

```
SILENT = YES
SOFTWAREONLY = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDepedencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
[TARGETS]
HOST = <ip_address>
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

この例は、HP SUM を実行しているディレクトリと同じディレクトリに配置されているベースラインを使用します。

別のベースラインを使用するには、入力ファイルに以下を追加します。

```
SOURCEPATH = <directory_path>
```

ノード上のファームウェアのみの更新

ノード上のファームウェアのみを更新するには、ソフトウェアのみを展開した例に以下の変更を加えます。

- **CLI モード** – コマンド `softwareonly` を削除し、`romonly` を追加します。
- **入力ファイルモード** – コマンド `SOFTWAREONLY` を削除し、`ROMONLY` を追加します。

ノードへの最新コンポーネントの展開

これらの例を使用すると、HP SUM は、複数のベースラインを含むディレクトリから最新の更新のみを適用します。

CLI モードでの最新コンポーネントの展開

- **Linux** : `hpsum --silent --target <ip_address> --user <userid> --passwd <password>`
- **Windows** : `hpsum /silent /target <ip_address> /user <userid> /passwd <password>`

入力ファイルモードでの最新コンポーネントの展開

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDepedencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
USELATEST = YES
[TARGETS]
HOST = <ipaddress_1>
TARGETTYPE = <type_1>
UID = <userid_1>
PWD = <password_1>
[END]
```

ノード上での旧バージョンのコンポーネントの強制的な展開

以下の例では、HP SUM は、旧バージョンのコンポーネントのソフトウェア展開をノードで強制的に実行します。

CLI モードでの強制的な展開

- **Linux** : `./hpsum --f:bundle --softwareonly --use_location <baseline_directory_path> --s`
- **Windows** : `hpsum /f:bundle /softwareonly /use_location <baseline_directory_path> /s`

入力ファイルモードでの強制的な展開

```
SILENT = YES
SOFTWAREONLY = YES
FORCEBUNDLE= YES
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
[TARGETS]
HOST = <ip_address>
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

2つのソフトウェアコンポーネントの展開

以下の例では、HP SUM はローカルホストに2つのコンポーネントを展開しますが、コンポーネントがすでにインストールされており、それがソフトウェアコンポーネントであった場合、HP SUM は再書き込みまたはダウングレードを強制的に実行します。

注記: この例では、指定されたコンポーネントがソフトウェアでない場合、HP SUM はそのコンポーネントを展開しません。

CLI モードでの2つのコンポーネントの展開

以下の例のどちらかを選択してください。両方の例でタスクを実行します。

- **Linux オプション 1** : `hpsum --f:software cp008097.exe cp008257.exe --s`
- **Linux オプション 2** : `hpsum --c cp008097.exe --c cp008257.exe --f:software --s`
- **Windows オプション 1** : `hpsum /f:software cp008097.exe cp008257.exe /s`
- **Windows オプション 2** : `hpsum /c cp008097.exe /c cp008257.exe /f:software /s`

入力ファイルモードでの2つのコンポーネントの展開

```
SILENT = YES
FORCESOFTWARE = YES
COMPONENTSLIST= cp008097.exe, cp008257.exe
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
[TARGETS]
HOST = localhost
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

sudo を使用したリモートの Linux ノードの更新

以下の例では、HP SUM は `userid` を使用してリモートの Linux ノードにログインし、`sudo` 機能を使用してコマンドを実行します。HP SUM は、HP SUM を実行しているディレクトリ内のベースラインを使用します。

sudo を使用した CLI モードでのリモート Linux ノードのアップデート

- **Linux** : `./hpsum --target <ip_address> --targettype linux --username <userid> --passwd <password> --use_sudo --use_location <baseline_directory_path> --silent`
- **Windows** : `hpsum /target <ip_address> /targettype linux /username <userid> /passwd <password> /use_sudo /use_location <baseline_directory_path> /silent`

sudo を使用した入力ファイルモードでのリモート Linux ノードのアップデート

```
SILENT = YES
SOURCEPATH = <baseline_path>
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
TARGETTYPE = LINUX
[TARGETS]
HOST = <ip_address>
USESUDO = YES
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

Superdome 2/X パーティションのアップデート

以下の例では、HP SUM は、Superdome 2/X エンクロージャーの npar3 とブレード 1/1 の各パーティションにアップデートを展開し、パーティションを再起動してアクティブ化します。

CLI モードでのパーティションのアップデート

- **Linux** : `./hpsum -silent --target <ip_address> --user <userid> --password <password> --ignore_warnings --update_type PARTITIONS --devicelist npar3,blade1/1 --rebootlist npar3 --use_location <baseline_directory_path>`
- **Windows** : `hpsum /silent /target 16.17.18.19 /user Administrator /password 12345678 /ignore_warnings /update_type PARTITIONS /devicelist npar3,blade1/1 /rebootlist npar3 /use_location C:\Users\Administrator\Desktop\SD2\3.7.60`

入力ファイルモードでのパーティションのアップデート

```
SILENT= YES
SOURCEPATH = <baseline_directory_path>
IGNOREWARNINGS = YES
[TARGET]
HOST = <ip_address>
UID = <userid>
PWD = <password>
UPDATETYPE = PARTITIONS
DEVICELIST=npar3,blade1/1
REBOOTLIST=npar3
[END]
```

スーパーユーザーの認証情報を使用したノードの更新

以下の例では、HP SUM は、リモートノードにログインし、スーパーユーザーの認証情報を使用してリモートノードを更新します。

CLI モードでのスーパーユーザーの認証情報の使用

- **Linux** : `./hpsum --target <ip_address> --targettype linux --username <userid> --passwd <password> --silent --su_username <su_userid> --su_password <su_password>`
- **Windows** : `/hpsum /target <ip_address> /targettype linux /username <userid> /passwd <password> /silent /su_username <su_userid> /su_password <su_password>`

入力ファイルモードでのスーパーユーザーの認証情報の使用

1つのノードの更新

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY=Omitcomponent
SUUSERNAME = <su_userid>
SUPASSWORD = <su_password>
[TARGETS]
HOST = <ip_address>
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

同じスーパーユーザー認証情報を使用する2つのノードの更新

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY=Omitcomponent
SUUSERNAME = <su_userid>
SUPASSWORD = <su_password>
[TARGETS]
HOST = <ip_address_1>
UID = <userid_1>
PWD = <password_1>
[END]
[TARGETS]
HOST = <ip_address_2>
UID = <userid_2>
PWD = <password_2>
[END]
```

異なるスーパーユーザー認証情報を使用する2つのノードの更新

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY=Omitcomponent
[TARGETS]
HOST = <ip_address_1>
UID = <userid_1>
PWD = <password_1>
SUUSERNAME = <su_userid_1>
SUPASSWORD = <su_password_1>
[END]
[TARGETS]
HOST = <ip_address_2>
UID = <userid_2>
PWD = <password_2>
SUUSERNAME = <su_userid_2>
SUPASSWORD = <su_password_2>
[END]
```

SSH キーを使用したノードのアップデート

次の例では、HP SUM で SSH キーを使用してログインし、リモートノードをアップデートすることができます。HP SUM は、DSA 暗号化キー形式をサポートします。次のコマンドを実行して、プライベートキーを生成することができます。

```
-ssh -keygen -t -dsa
```

CLI モードでの SSH キーの使用

- **Linux :** `./hpsum --target <ip_address> --targettype linux --username <userid> --use_sshkey privatekeyfile=/privatekeyfile/location passphrase=12345 --silent`
- **Windows :** `/hpsum /target <ip_address> /targettype linux /username <userid> /use_sshkey privatekeyfile=c:/privatekeyfile/location passphrase=12345 /silent`

入力ファイルモードでの SSH キーの使用

1つのノードのアップデート

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDepedencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY=Omitcomponent
[TARGETS]
HOST = <ip_address>
UID = <userid>
USE_SSHKEY = YES
PRIVATEKEYFILE = c:/<keyfile_directory>
PASSPHRASE = <passphrase_string>
[END]
```

同じキーファイルと SSHKEY を使用する 2つのノードのアップデート

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDepedencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY=Omitcomponent
USE_SSHKEY=YES
PRIVATEKEYFILE = c:/<keyfile_directory>
PASSPHRASE = <passphrase_string>
[TARGETS]
HOST = <ip_address_1>
UID = <userid_1>
[END]
[TARGETS]
HOST = <ip_address_2>
UID = <userid_2>
[END]
```

異なる SSH キーファイルとパズフレーズを使用する 2つのノードのアップデート

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDepedencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY=Omitcomponent
USE_SSHKEY=YES
[TARGETS]
HOST = <ip_address_1>
UID = <userid_1>
PRIVATEKEYFILE = c:/<keyfile_directory>
PASSPHRASE = <passphrase_string>
[END]
[TARGETS]
HOST = <ip_address_2>
```

```
UID = <userid_2>  
PRIVATEKEYFILE = c:/<keyfile_directory>  
PASSPHRASE = <passphrase_string>  
[END]
```

4 CLIのパラメーター

管理エージェントインストールのパラメーター

G7またはそれ以前のサーバーは、AMS エージェントをサポートしていません。以下は、管理エージェントパラメーターを使用するときに行われる新規インストールを示しています。

管理エージェントがインストールされているかどうかを確認するには、HP SUM を使用してファームウェア詳細レポートを作成します。例：

```
$ ./hpsum --report --firmware_report --s (Linux)
```

```
C:\ hpsum /report /firmware_report /s (Windows)
```

注記： ノードにすでに管理エージェントがインストールされている場合は、新しいバージョンが公開されていれば、HP SUM は管理エージェントをアップグレードします。

たとえばノードにSNMPがインストールされている場合に `use_ams` パラメーターを使用すると、AMS がインストールされ、SNMP の新しいバージョンが公開されている場合はSNMPがアップグレードされます。

以下に、特定のコマンドを発行したときに HP SUM によって展開されるエージェントを示します。

- 管理エージェントのパラメーターを指定しない場合：
 - G7 またはそれ以前のサーバー
インストールされるエージェント：SNMP
 - Gen8 以降のサーバー
インストールされるエージェント：AMS
- `--no_mgmt` (Linux)
`/no_mgmt` (Windows)
このパラメーターを指定すると、SNMP、AMS、およびWBEMエージェントのインストールやアップグレードは行われません。システムにインストールされている管理エージェントには影響がありません。
 - G7 またはそれ以前のサーバー
インストールされるエージェント：なし
 - Gen8 以降のサーバー
インストールされるエージェント：なし
- `--use_ams` (Linux)
`/use_ams` (Windows)
 - G7 またはそれ以前のサーバー
インストールされるエージェント：なし
 - Gen8 以降のサーバー
インストールされるエージェント：AMS
- `--use_snmp` (Linux)
`/use_snmp` (Windows)
 - G7 またはそれ以前のサーバー
インストールされるエージェント：SNMP

- Gen8 以降のサーバー
インストールされるエージェント：SNMP
- /use_wmi (Windows のみ)
 - G7 またはそれ以前のサーバー
インストールされるエージェント：WBEM
 - Gen8 以降のサーバー
インストールされるエージェント：WBEM
- --use_ams --use_snmp (Linux)
/use_ams /use_snmp (Windows)
 - G7 またはそれ以前のサーバー
インストールされるエージェント：SNMP
 - Gen8 以降のサーバー
インストールされるエージェント：AMS および SNMP
- /use_ams /use_wmi (Windows)
 - G7 またはそれ以前のサーバー
インストールされるエージェント：WBEM
 - Gen8 以降のサーバー
インストールされるエージェント：AMS および WBEM
- /use_wmi /use_snmp (Windows)
 - G7 またはそれ以前のサーバー
インストールされるエージェント：WBEM および SNMP
 - Gen8 以降のサーバー
インストールされるエージェント：WBEM および SNMP
- /use_ams /use_wmi /use_snmp (Windows)
 - G7 またはそれ以前のサーバー
インストールされるエージェント：WBEM および SNMP
 - Gen8 以降のサーバー
インストールされるエージェント：AMS、SNMP、および WBEM

HP SUM は、SNMP エージェントがインストールされるときに SMH テンプレートをインストールします。

HP SUM CLI パラメーター

HP SUM は、次のコマンドライン引数を認識します。--romonly、--softwareonly など、一部の引数は一緒に使用することはできません。

ヘルプ

CLI のヘルプを表示するには、`hpsum --s --h` と入力します。

構文

--h[elp] または --? (Linux)

/h[elp] または/? (Windows)

説明

コマンドラインのヘルプ情報を表示します。

インストールパラメーター

次のセクションでは、アップデートのインストール時に使用できる属性について説明します。

強制

構文

--f[orce] (Linux)

/f[orce] (Windows)

説明

現在インストールされているコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードします。この引数の役割は、f:softwareと同じです。

オプション

f[orce]:bundle

選択されているバンドルに含まれ、現在インストールされているコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードします。

f[orce]:rom

現在インストールされ、選択されているファームウェアコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードします（ファームウェアにのみ適用）。

f[orce]:software

現在インストールされ、選択されているソフトウェアコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードします。

f[orce]:all

現在インストールされ、選択されているソフトウェアコンポーネント、ファームウェアコンポーネント、およびバンドルを再書き込みまたはダウングレードします。

ダウングレード

構文

--g or --downgrade (Linux)

/g or /downgrade (Windows)

説明

現在インストールされているバージョンよりも低いバージョンを利用できる、インストール対象のコンポーネントを選択します。このコマンドを発行するとアップグレードも行われます。rewriteと組み合わせることができます。

再書き込み

構文

--e or --rewrite (Linux)

/e or /rewrite (Windows)

説明

インストールされているバージョンと同じバージョンを利用できる、インストール対象のコンポーネントを選択します。このコマンドを発行するとアップグレードも行われます。downgrade と組み合わせることができます。

ROM 展開のみ

構文

```
--romonly (Linux)  
/romonly (Windows)
```

説明

インストール対象とみなされるコンポーネントをファームウェアコンポーネントのみに制限します。softwareonly と一緒に使用することはできません。softwareonly と romonly のどちらも使用しない場合、すべてのコンポーネントがインストール対象となる可能性がありますとみなされます。

ソフトウェア展開のみ

構文

```
--softwareonly (Linux)  
/softwareonly (Windows)
```

説明

インストール対象とみなされるコンポーネントをソフトウェアコンポーネントのみに制限します。romonly と一緒に使用することはできません。softwareonly と romonly のどちらも使用しない場合、すべてのコンポーネントがインストール対象とみなされます。

使用するネットワークポート

構文

```
--port <n> (Linux)  
/port <n> (Windows)
```

説明

HP SUM が内部 HTTP サーバー用として使用するポートを 63001 から指定のポートに変更します。

SSL ポート

構文

```
--ssl_port <n> (Linux)  
/ssl_port <n> (Windows)
```

説明

HP SUM が内部 HTTPS サーバー用として使用するポートを 63002 から指定のポートに変更します。

ファイアウォールのオープン

構文

```
--open_firewall (Linux)
```

/open_firewall (Windows)

説明

外部アクセスに使用する HTTP および HTTPS ポートを開くことを HP SUM に許可します。リモートノード機能およびリモートブラウザアクセスのためにポートを開くときにも使用します。

HP SUM は、ip_tables に DROP コマンドが含まれていても、ノードに更新を展開します。open_firewall を使用すると、DROP ルールはバイパスされます。

入力ファイルを呼び出すコマンドにこのパラメーターを含めます。HP SUM 入力ファイルは、ファイアウォールを開くパラメーターをサポートしていません。

サイレント展開

構文

--s[ilent] (Linux)

/s[ilent] (Windows)

説明

GUI や対話式 CLI の出力を伴わないサイレントインストールが行われます。データはすべてログファイルに書き込まれます。express_install パラメーターは silent パラメーターと組み合わせて使用しないでください。

使用法

HP SUM では、CLI コマンドにサイレントパラメーターが必要です。

展開するコンポーネントの指定

構文

--c[omponent]<component_to_install> または <component1_to_install>
<component2_to_install> (Linux)

/c[omponent]<component_to_install> または <component1_to_install>
<component2_to_install> (Windows)

説明

インストールするコンポーネントを指定します。/c[omponent] 引数の有無にかかわらず、インストールするコンポーネントを指定します。

c[omponent] パラメーターを使用する場合は、パラメーターごとに 1 つの構成要素を指定します。複数の c パラメーターを、同じコマンドラインの個々のコンポーネントに含めることができます。

- --c[omponent] 引数を使用しない場合、複数のコンポーネントをスペースで区切り、コマンドライン上の他のすべての引数の後に指定します。
- デフォルトでは、HP SUM は、コマンドに記載されている順序でコンポーネントを展開します。HP SUM は、依存関係に基づいて展開の順序を変更します。
- 複数のコンポーネント (--c[omponent]<component_to_install> を参照) とバンドルを同一コマンドラインに指定します。1 つのコマンドラインにコンポーネントとバンドルが混在する場合、フィルタースイッチによりインストールされるコンポーネントとバンドルが制御されます。
- HP SUM は、コンポーネント名のみを使用します。完全なディレクトリパスを入力しても、HP SUM はパスを無視します。--use_location および c を使用する場合、HP SUM は、デフォルトのレポジトリと指定されたディレクトリの両方をチェックします。

5 つより多くの構成要素を指定する場合は、複数のコマンドを発行するか、入力ファイルを使用します。

グループ名の定義

構文

```
--group "group_name" (Linux)  
/group "group_name" (Windows)
```

説明

この引数は、HP SUM GUI で定義済みのグループ名を指定します。

インストールするバンドルの定義

構文

```
--b[undle] <bundlename> (Linux)  
/b[undle] <bundlename> (Windows)
```

説明

この引数は、インストールするバンドルを指定します。b[undle] 引数の有無にかかわらず、インストールするバンドルを指定します。

複数のコンポーネントとバンドル (b[undle] <bundlename> を参照) を同一コマンドラインに指定します。1 つのコマンドラインにコンポーネントとバンドルが混在する場合、フィルタースイッチによりインストールされるコンポーネントとバンドルが制御されます。

ベースラインの場所の定義

構文

```
--use_location "file_share" (Linux)  
/use_location "file_share" (Windows)
```

説明

HP SUM で使用する SPP、Integrity Smart Update Firmware バンドル、およびコンポーネントを含むディレクトリまたはファイル共有を指定します。HP SUM は、ターゲットの **file_share** がマッピング済みファイル共有または UNC 形式であることを期待します。

この引数を指定しない場合は、HP SUM は、HP SUM を含むディレクトリをデフォルトで使用します。

ログインしたアカウントでこの場所にアクセスできることを確認してください。この場所が UNC ファイル共有である場合は、unc_username と unc_password を使用してファイル共有の認証情報を指定する必要があります。この認証情報を指定しない場合、HP SUM は現在の認証情報を使用して共有にアクセスします。

コンポーネント構成のインポート

構文

```
--import_configuration <directory_path> (Linux)  
/import_configuration <directory_path> (Windows)
```

説明

これは、指定したベースライン内のコンポーネントのコンポーネント構成設定を含むディレクトリを示します。ベースライン内のコンポーネント構成は、インポートしたコンポーネント構成によって上書きされます。

UNC ユーザー認証情報

構文

```
--unc_username (Linux)  
/unc_username (Windows)
```

説明

ファイル共有にアクセスするためのユーザー名認証情報。

UNC パスワード認証情報

構文

```
--unc_password (Linux)  
/unc_password (Windows)
```

説明

ファイル共有にアクセスするためのパスワード認証情報。

管理エージェントコンポーネントなし

構文

```
--no_mgmt (Linux)  
/no_mgmt (Windows)
```

説明

AMS、SNMP、および WBEM Provider の管理コンポーネントが [展開] 画面で自動的に選択されていないことを示します。サイレントモードでは、HP SUM は、どの管理コンポーネントも更新しません。

管理オプションについて詳しくは、「[管理エージェントインストールのパラメーター](#)」(20 ページ)を参照してください。

SNMP エージェントコンポーネントの使用

構文

```
--use_snmp (Linux)  
/use_snmp (Windows)
```

説明

HP SUM が自動的に SNMP コンポーネントをインストール対象に選択します。

制限

(Linux のみ) HP SUM が SNMP RPM および smh_templates RPM を選択します。

WMI エージェントコンポーネントの使用

構文

```
/use_wmi
```

説明

HP SUM が自動的に WBEM コンポーネントをインストール対象に選択します。

制限

Windows のみ

AMS エージェントコンポーネントの使用

構文

```
--use_ams (Linux)  
/use_ams (Windows)
```

説明

(Gen8 以降のみ) HP SUM が自動的に AMS コンポーネントをインストール対象に選択しません。

高速インストール

構文

```
--express_install (Linux)  
/express_install (Windows)
```

説明

GUI を起動し、Localhost ガイド付きアップデートを自動モードで開始します。このパラメーターは、silent パラメーターを使用しているときは無視されます。

エラーを無視するパラメーター

次の表では、HP SUM で発生するエラーを無視するために使用する属性について説明します。

TPM のバイパス

構文

```
--tpmbypass または --ignore_tpm (Linux)  
/tpmbypass または /ignore_tpm (Windows)
```

説明

TPM を有効にした場合は、警告メッセージを無視し、コンポーネントのインストールを続行します。TPM について詳しくは、『HP Smart Update Manager ユーザーガイド』を参照してください。

警告の無視

構文

```
--ignore_warnings (Linux)  
/ignore_warnings (Windows)
```

説明

HP SUM がノードに関する警告を受けた後でも、インストールの続行が許可されます。一部の警告は、次のとおりです。

- Serviceguard クラスターのアクティブメンバー このオプションを指定せず、ノードが Serviceguard クラスターのアクティブなメンバーである場合、ノードはインストールフェーズまたは展開フェーズに入りません。
- TPM の警告

- Superdome 2/X 固有の警告

インストールの続行とエラーの無視

構文

```
--continue_on_error <error> (Linux)  
/continue_on_error <error> (Windows)
```

説明

インストールが継続され、エラーが無視されます。

オプション

有効な値は、次のとおりです。

<error>=ServerNotFound

ServerNotFound オプションを使用すると、ファームウェアまたはソフトウェアを複数のリモートホストに同時に展開する場合に、アクティブではない、または利用できないリモートホストをバイパスすることができます。

<error>=BadPassword

BadPassword オプションを使用すると、提供された認証応報が誤っていると報告されたリモートノードをバイパスし、他のノードの処理を続行することができます。

<error>=FailedDependencies

FailedDependencies オプションを使用すると、失敗した依存関係のあるリモートノードをバイパスし、インストール準備ができて他のノードの処理を続行することができます。これは、`on_failed_dependency:Force` または `:OmitComponent` を使用して上書きすることができます。

既存の接続の無効化

構文

```
--override_existing_connection (Linux)  
/override_existing_connection (Windows)
```

説明

HP SUM に、進行中のセッションを無効化してリモートノードのインストールフレームワークを再初期化するよう指示します。

このパラメーターを指定しないと、HP SUM セッションがリモートノードですでに実行されている場合、HP SUM はこのノードをスキップします。

失敗した依存状態

構文

```
--on_failed_dependency (Linux)  
/on_failed_dependency (Windows)
```

説明

このパラメーターによってホストが障害状態に設定されるため、HP SUM はインストールを試行しません。

オプション

OmitHost (デフォルト)

ターゲットが障害状態に設定されるため、インストールは試行されません。

OmitComponent

影響を受けるコンポーネントの選択が解除され、失敗した依存状態が発生していないアップデートによってプロセスが進められます。

Force

依存状態に障害があっても、すべてのアップデートが試行されます。

[サンプル]

```
--on_failed_dependency:OmitHost (Linux)
/on_failed_dependency:OmitHost (Windows)
--on_failed_dependency:OmitComponent (Linux)
/on_failed_dependency:OmitComponent (Windows)
--on_failed_dependency:Force (Linux)
/on_failed_dependency:Force (Windows)
```

再起動パラメーター

再起動

構文

```
--r[eboot] (Linux)
/r[eboot] (Windows)
```

説明

サーバー（リモートインストールではホストサーバー）は、次の条件で再起動します。

- reboot オプションを選択するか、そのオプションをコマンドライン引数内で使用する場合。
- インストール用に選択されたすべてのコンポーネントが正常にインストールされた場合。
- インストールされたコンポーネントのうち少なくとも1つで、インストールを完了するために再起動が必要な場合。

再起動メッセージ

構文

```
--reboot_message "reboot message" (Linux)
/reboot_message "reboot message" (Windows)
```

説明

再起動するサーバーに接続されているリモートコンソールに、指定した再起動メッセージを表示します。この引数は reboot オプションと組み合わせて使用してください。そうでない場合は無視されます。

再起動遅延

構文

```
--reboot_delay timeout_in_secs (Linux)
```

```
/reboot_delay timeout_in_secs (Windows)
```

説明

timeout_in_seconds 変数で指定された時間だけ、サーバーの再起動を遅らせます。

デフォルトは、Windows オペレーティングシステムの場合は 15 秒、Linux の場合は 60 秒です。

Linux システムでは、再起動遅延の時間は秒単位から分単位に変換され、1 分未満（59 秒以下）の値は切り上げられます。

オプション

15～3600 までの値を指定できます。

要件

この引数は reboot オプションと組み合わせて使用してください。そうでない場合は無視されます。

常に再起動

構文

```
--reboot_always (Linux)
```

```
/reboot_always (Windows)
```

説明

サーバーは次の条件で強制的に再起動されます。

- reboot_always オプションを選択するか、コマンドライン引数として指定する場合。
- インストール用に選択されたすべてのコンポーネントが正常にインストールされた場合。

実行パラメーターのテスト

構文

```
--dryrun (Linux)
```

```
/dryrun (Windows)
```

説明

この属性をその他の属性とともに使用し、実際の展開を除いてコマンドのすべてのプロセスを HP SUM で実行します。これを使用して、リモートノードの接続と構成を確認し、HP SUM が何を更新するかを確認します。

要件

この引数は、テスト実行用にインストールをシミュレーションします。HP SUM は、どの更新も展開しません。

ノードパラメーター

以下の属性は、ノードのアップデートオプションを定義します。属性を指定するときに、ターゲットノードを指定してから属性を指定します。ターゲットノードの前に属性を指定しないでください。

次に例を示します。

有効例：

```
hpsum /s /target 10.0.1.2 /user root /password root
```

無効例：

```
hpsum /s /user root /password root /target 10.0.1.2
```

グローバル属性を、属性を指定しないノードに適用できます。属性を適用する1つのターゲットノードとともに、コマンドラインの最後にグローバル属性を記述します。次に例を示します。

```
hpsum /s /target 10.0.1.3 /target 10.0.1.4 /target 10.0.1.5 /user root /password root
```

以下の属性は、グローバルに使用できます。

username/user、password/passwd、use_location、current_credential、use_sudo、su_username、su_password、use_sshkey、vcenter_host、vcenter_username、および vcenter_password。

ユーザー名

構文

```
--user<username> または --username <username> (Linux)  
/user<username> または /username <username> (Windows)
```

説明

ユーザー ID を使用してリモートノードにログインする場合は、この引数を使用します。

要件

ユーザー名が root または管理者グループに属していることを確認してください。

ユーザーパスワード

構文

```
--password <password> (Linux)  
/password <password>  
HP SUM は、passwd と pwd もサポートしません (Windows)
```

説明

user パラメーターで指定したユーザー ID のパスワード。システムはリモートノードへのログインにこのパスワードを使用します。

SSH キーファイルの使用

構文

```
--use_sshkey (Linux)  
/use_sshkey (Windows)
```

説明

SSH キーを使用して、Linux および HP-UX ノードに接続します。HP SUM は、他のタイプのノードについては、このパラメーターを無視します。

このパラメーターを指定する場合、HP SUM はプライベートキーファイルの場所を必要としません。パスフレーズ (PEM 形式) は、ユーザーが渡すことができるオプションのパラメーターです。

プライベートキーファイルの場所

構文

```
privatekeyfile  
hpsum /target 10.0.1.2 /user root /use_sshkey  
privatekeyfile=c:<keyfile_directory/ssh.pem> /r /s
```

説明

専用の SSH キーファイルが生成されている場合、HP SUM によって、パスフレーズが必要であることが自動的に検出され、その入力求められます。

要件

use_sshkey パラメーターとともに使用します。

SSH パスフレーズ

構文

```
passphrase
```

説明

このオプションを使用して、パラメーター use_ssh とともに使用するパスフレーズと、オプションの privatekeyfile を指定します。

パスフレーズがキーファイルによって要求されるときに、パラメーターとして指定されていない場合、HP SUM はパスフレーズの入力を求めます。

```
hpsum /target 10.0.1.2 /user root use_sshkey  
privatekeyfile=c:<keyfile_directory/ssh.pem> passphrase=12345 /r /s
```

要件

use_sshkey パラメーターとともに使用します。

スーパーユーザー名

構文

```
--su_username (Linux)  
/su_username (Windows)
```

説明

username および passwd で指定された認証情報にコンポーネントを更新するための root 権限がない場合、リモートノードで root (スーパーユーザー) ユーザー名を使用してセッションを開始し、コンポーネントのインベントリと更新を実行します。

su_username は use_sudo アクセスレベルと一緒に使用します。

ローカルホストでは、このコマンドを使用しないでください。

スーパーユーザーのパスワード

構文

```
--su_password (Linux)  
/su_password (Windows)
```


説明

username および passwd で指定された認証情報にコンポーネントを更新するための root 権限がない場合、リモートノードで root (スーパーユーザー) ユーザー名を使用してセッションを開始し、コンポーネントのインベントリと更新を実行します。

su_password は use_sudo アクセスレベルと一緒に使用します。

ローカルホストでは、このコマンドを使用しないでください。su を使用してローカルホスト上で HP SUM を起動するには、次の例を使用します。

```
su root
hpsum --s --f --use_location /mnt/spp
```

sudo 認証情報の使用

構文

```
--use_sudo (Linux)
/use_sudo (Windows)
```

説明

リモートノードの username と password が sudo ユーザーの認証情報であることを指定します。

要件

username および passwd と併用すると、両方が sudo ユーザー認証情報であることを示します。

use_sudo を su_username および su_password と組み合わせて使用します。

ターゲットアドレスの定義

構文

```
--target "netAddress" (Linux)
/target "netAddress" (Windows)
```

説明

これは、リモートサーバー、リモートの iLO NIC ポート、c-Class BladeSystem 用の Virtual Connect Ethernet もしくはファイバーチャネルモジュール、または BladeSystem OA となりうるリモートホストの IP アドレスまたは DNS 名です。

2 つの OA がエンクロージャー内にあるときは、アクティブな OA を引数として使用します。IP アドレスを指定する場合は、IPv4 または IPv6 形式を使用します。

VC ノードを追加する場合は、プライマリ Enet モジュールの IP アドレスを使用します。

ターゲットタイプの定義

構文

```
--targettype "type" (Linux)
/targettype "type" (Windows)
```

説明

スクリプト展開のインベントリ時間を短縮します。これはオプションのコマンドライン引数です。

設定可能な値

Windows

Linux

iLO

HPUX

fc_switch

oa

SD2

virtual_connect - プライマリ VC Enet モジュールの IP アドレスを使用します

sas_switch

VMware

Moonshot

targettype は、target パラメーターと一緒に使用してください。targettype と target の順番は入れ替え可能です。ノード名にスペースが含まれる場合は、引用符「」で名前を囲んでください。

ユーザーの現在の認証情報

構文

/current_credential (Windows のみ)

説明

ローカルホストの認証情報を使用してノードにアクセスでき、ノードごとに明示的にユーザー名とパスワードを入力する必要がなくなります。処理しているノードで現在の認証情報が有効であることが前提です (Windows にのみ適用)。

OA ユーザー名

構文

--oa_username (Linux)

/oa_username (Windows)

説明

target コマンドを使用して指定した VC ターゲットのユーザー名認証情報を指定します。コマンドラインパラメーターを使用して指定できる OA 認証情報は 1 組のみであるため、target パラメーターを使用して複数の VC ノードを追加する必要がある場合は、指定のそれぞれの VC で OA 認証情報が同一であることを確認してください。VC に関連付けられた OA ネットワークアドレスを提供する必要はありません。HP SUM は、指定した VC ノードから OA ネットワークアドレスを取り出します。

異なるユーザー名とパスワードで複数の VC を更新する、または異なる認証情報を持つ OA で VC を更新するには、対応する入力ファイル OAUID と OAPWD を使用する必要があります。

OA ユーザーのパスワード

構文

--oa_password (Linux)

/oa_password (Windows)

説明

「node」コマンドラインパラメーターで指定した VC に関連する OA のパスワード認証情報を提供します。コマンドラインパラメーターには、ただ 1 組の OA 認証情報しか指定できません。指定した VC に関連する OA の認証情報が同じ場合のみ、「node」パラメーターでコマンドラインパラメーターに複数の VC ノードを追加します。VC に関連付けられた OA ネットワークアドレスを提供する必要はありません。HP SUM は、指定した VC ノードから OA ネットワークアドレスを取り出します。

異なるユーザー名とパスワードで複数の VC を更新する、または異なる認証情報を持つ OA で VC を更新するには、対応する入力ファイル OAUID と OAPWD を使用する必要があります。

Moonshot ユーザー名

構文

```
--switch_username (Linux)
--switchb_username (Linux)
/switch_username (Windows)
/switchb_username (Windows)
```

説明

Moonshot スイッチ認証情報の指定にこのコマンドを使用します。

Moonshot スイッチユーザーのパスワード

構文

```
--switch_password (Linux)
--switchb_password (Linux)
/switch_password (Windows)
/switchb_password (Windows)
```

説明

Moonshot スイッチパスワードの指定にこのコマンドを使用します。

Moonshot ノードの有効化

構文

```
--switch_enable (Linux)
--switch_enableb (Linux)
/switch_enable (Windows)
/switch_enableb (Windows)
```

説明

Moonshot ノードを有効にするには、このコマンドを使用します。

FIPS モードでの VC の有効化

構文

```
--encryption_key (Linux)
/encryption_key (Windows)
```

説明

FIPS モードで VC を有効にするには、このコマンドが必要です。

指定可能な値

最小 8 文字の文字列。

VC-Enet モジュールの有効化順序

構文

```
--ethactorder (Linux)  
/ethactorder (Windows)
```

説明

VC-Enet モジュールの有効化順序を決めるには、このコマンドを使用します。

設定可能な値

ODDEVEN
PARALLEL
SERIAL
MANUAL

VC-FC 有効化順序

構文

```
--fcactorder (Linux)  
/fcactorder (Windows)
```

説明

VC-FC の有効化順序を決めるには、このコマンドを使用します。

設定可能な値

ODDEVEN (デフォルト)
PARALLEL
SERIAL
MANUAL

VC-Enet の有効化と reboot オプション

構文

```
--ethactdelay (Linux)  
/ethactdelay (Windows)
```

説明

VC-Enet モジュールの有効化または再起動の間の時間を分単位で決めるには、このコマンドを使用します。

設定可能な値

最大で 60 分。デフォルトは 0 分。

VC-FC の有効化と reboot オプション

構文

```
--fcactdelay (Linux)  
/fcactdelay (Windows)
```

説明

VC-FC モジュールの有効化または再起動の間に待機する時間を決めるには、このコマンドを使用します。

設定可能な値

最大で 60 分。デフォルトは 0 分。

VCenter ホスト

構文

```
--vcenter_host (Linux)  
/vcenter_host (Windows)
```

説明

VMware vCenter の IP アドレスを入力します。

ロックダウンモードになっている VMware vCenter でチケットを生成するには、VMware Vcenter ノードでこのコマンドを使用します。このコマンドは、コマンドライン内のすべてのターゲットに適用されます。VMware 以外のノードの場合、このコマンドは無視されます。

VCenter ユーザー名

構文

```
--vcenter_username (Linux)  
/vcenter_username (Windows)
```

説明

ユーザー名を入力し、VMware vCenter にログインします。詳しくは、vcenter_host を参照してください。

VCenter のパスワード

構文

```
--vcenter_password (Linux)  
/vcenter_password (Windows)
```

説明

パスワードを入力し、VMware vCenter にログインします。詳しくは、vcenter_host を参照してください。

iLO のスキップ

構文

```
--skip_ilo (Linux)  
/skip_ilo (Windows)
```

説明

このコマンドは、インストールセットから iLO Smart コンポーネントを削除するよう HP SUM に指示します。（オフラインの EFM 付き Linux のみ）

ログファイルのパラメーター

ログディレクトリ

構文

```
--logdir "path" (Linux)
/logdir "path" (Windows)
```

説明

HP SUM または BladeSystem c-Class OA フラッシュユーティリティからの出力をデフォルトディレクトリ以外のディレクトリにリダイレクトします。

Windows コンポーネントの場合、デフォルト位置は %SYSTEMDRIVE%\CPQSYSTEM\hp\log<netAddress> で、リダイレクト先は <path>\hp\log\<netAddress> です。

HP SUM は、コンポーネントを処理するときに %SYSTEMDRIVE%\CPQSYSTEM\ディレクトリを作成します。HP SUM は、リダイレクトされたディレクトリに hpsum_log.txt、hpsum_detail_log.txt、および HPSUM_InstallDetails.txt ファイルのみを書き込みます。その他のログはデフォルトディレクトリに書き込みます。

Linux コンポーネントの場合は、デフォルト位置は /var/hp/log/<netAddress> で、リダイレクト先は <path>/hp/log/<netAddress> です。

冗長レベルのログ記録

構文

```
--v[erbose] または --veryv[erbose] (Linux)
/v[erbose] または /veryv[erbose] (Windows)
```

説明

HP SUM 実行ログファイル hpsum_execution_log_<date>_<time>.log の冗長レベルを設定します。ログファイルに維持される詳細レベルを上げることができます。デフォルトは通常の冗長レベルです。

レポートパラメーター

- ① **重要:** 常に個別にレポートコマンドを実行してください。レポートを生成するコマンドを使用する場合、他のすべてのコマンドは無視され、レポートのみが実行されます。その他のパラメーターをコマンドラインで使用した場合、インベントリが実行されてレポートが作成されますが、更新は展開されません。

注記: 統合レポートとインストール済みレポートは、展開の完了後にのみ生成できます。

HPSUMはコマンドライン引数を使用して、指定されたシステムまたはリポジトリに関するレポートを生成します。コマンドラインにその他の場所を指定しない場合は、ローカルホストとデフォルトのリポジトリ位置（HPSUMが起動されたディレクトリ）が使用されます。適切な認証情報を提供する場合は、ノードを指定します。他のコマンドラインパラメーターを使用してリポジトリを指定し、レポートを生成します。特定のコマンドについては、「[HP SUM CLI パラメーター](#)」(21 ページ)を参照してください。

HP SUM は、JavaScript 対応 Web ブラウザーで表示できる XML または HTML ファイルとしてレポートを生成するか、CSV 形式をサポートする任意のアプリケーションで開くことができる CSV 形式のレポートを生成します。

デフォルトの場所は、HP SUM が起動された現在のワーキングディレクトリです。この場所が書き込み禁止になっている場合、HP SUM はレポートを HP SUM ログファイルと同じディレクトリに保存します。HP SUM がレポートを保存できる別のディレクトリを指定するには、reportdir パラメーターを使用します。

HP SUM ログファイルは次のデフォルトのディレクトリにあります。

Windows オペレーティングシステムの場合： C:\cpqsystem\hp\log

Linux の場合： /var/hp/log

HP SUM がレポートを生成するとき、HP SUM GUI は表示されません。HP SUM に、生成されたレポートのファイルの場所が表示されます。

ノード概要レポートの生成

構文

```
--report (Linux)
/report (Windows)
```

説明

ノードの概要のレポートリストとレポジトリ内のコンポーネントがノードに与える影響（たとえば、各コンポーネントがノードに適用されるかどうか）に関する説明を生成します。レポートは HTML および XML で生成され、HPSUM_Report_< 日付 >_< 時刻 >.html および HPSUM_Report_< 日付 >_< 時刻 >.xml の形式でファイルに名前が付けられます。

HPSUM は、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。どの更新も展開しません。

インベントリレポジトリレポートの生成

構文

```
--inventory_report (Linux)
/inventory_report (Windows)
```

説明

指定されたレポジトリ内のコンポーネントをリスト表示するレポートを生成します。レポートは HTML および XML で生成され、HPSUM_Inventory_Report_< 日付 >_< 時刻 >.html および HPSUM_Inventory_Report_< 日付 >_< 時刻 >.xml の形式でファイルに名前が付けられます。

HPSUM は、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。どの更新も展開しません。

インストール済みファームウェアレポートの生成

構文

```
--firmware_report (Linux)
/firmware_report (Windows)
```

説明

インストール済みファームウェアとソフトウェアのリスト、およびノードの詳細を示すレポートを生成します。レポートは HTML および XML で生成され、HPSUM_Firmware_Report.html

および `fwreport.xml` (`HPSUM Firmware_Report_<日付>_<時刻>` という名前のディレクトリ内) の形式でファイルに名前が付けられます。

HPSUM は、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。どの更新も展開しません。

失敗した依存関係のレポートの生成

構文

```
--dependency_report (Linux)
/dependency_report (Windows)
```

説明

すべてのノードの失敗した依存関係をリスト表示するレポートを生成します。

HPSUM は、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。どの更新も展開しません。

インストール済みアップデートレポートの生成

構文

```
--installed_report (Linux)
/installed_report (Windows)
```

説明

HPSUM のこのセッション中に、すべてのノードにインストールされているすべてのファームウェア、ソフトウェア、およびドライババージョンをリスト表示するレポートが生成されます。

HPSUM は、ノードのインベントリを作成し、アップデートを展開してから、レポートを生成します。

結合レポートの生成

構文

```
--combined_report (Linux)
/combined_report (Windows)
```

説明

このレポートは、1つのファイルにすべてのレポートタイプを生成します。

HPSUM は、ノードのインベントリを作成し、アップデートを展開してから、レポートを生成します。

レポートディレクトリ

構文

```
--reportdir (Linux)
/reportdir (Windows)
```

説明

レポートの保存先ディレクトリを指定するには、すべてのレポートコマンドでこのパラメータを使用します。例：`hpsum --report ---reportdir /etc/user/reports.`

入力ファイルのパラメーター

複数のノードか個々のノード、またはノードグループのアップデートのスクリプトを作成するには、次のパラメーターを使用します。

入力ファイルの使用

構文

```
--inputfile "filename" (Linux)

```

説明

ファームウェアおよびソフトウェアを複数のリモートシステムに同時に展開するスクリプトを作成します。

入力ファイルの削除

構文

```
--deleteinputfile (Linux)
/deleteinputfile (Windows)
```

説明

HP SUM に、入力ファイルを読み取り後に削除するように指示します。

Superdome 2/X サーバーのコマンド

ファームウェアのアップデートタイプ

構文

```
--update_type <type> (Linux)
/update_type <type> (Windows)
```

説明

どの Superdome 2/X ファームウェアを更新するかを決定します。

オプション

ALL (デフォルト)
COMPLEX
PARTITIONS

例

```
update_type PARTITIONS
```

特定デバイスのアップデート

構文

```
--device_list <device[,device]...> (Linux)
/device_list <device[,device]...> (Windows)
```

説明

update_type 引数が PARTITIONS の場合は、この引数を使います。この引数は、全部のパーティションや未割り当てのブレードを更新したくない場合に、更新するパーティションのサブセットや未割り当てのブレードを指定します。

オプション

npar (number)

blade (enc) / (bay)

パラメーターの間にスペースを入れしないでください。

例

```
device_list npar1,npar2,blade1/1,blade1/2
```

パーティション reboot オプション

構文

```
--reboot_list <npar[,npar]...> (Linux)
```

```
/reboot_list <npar[,npar]...> (Windows)
```

説明

update_type が ALL または PARTITIONS の場合は、この引数を使います。この引数は、パーティションファームウェアが更新された後に再起動する特定のパーティションを指定します。

オプション

npar 値は npar (number) です。パラメーターの間にスペースを入れしないでください。

例

```
reboot_list npar1,npar2
```

リターンコード

HP SUM は Linux と Windows smart コンポーネントのリターンコードを、拡張されたリターンコードマッピングに統合しました。これらのリターンコードは、コンポーネントインストールのステータスを決定します。また、スクリプトのリターンコードを使用して、スクリプトの実行を制御したり、必要な分岐を決定したりできます。

SUCCESS_NO_REBOOT

Linux : 0

Windows : 0

テキスト : The installation was successful. (インストールに成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Linux : 1

Windows : 1

テキスト : The installation was successful, but a reboot is required. (インストールに成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Linux : 3

Windows : 3

テキスト : The component was current or not required. (このコンポーネントは最新であるか、または不要です。)

FAILURE_GENERAL

Linux : 255

Windows : -1

テキスト : A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the error log. (詳しくは、エラーログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Linux : 254

Windows : -2

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Linux : 253

Windows : -3

テキスト : The installation of the component failed or was blocked by an unmet dependency. (コンポーネントのインストールが失敗したか、一致しない依存関係によってブロックされました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Linux : 252

Windows : -4

テキスト : The CLI command execution failed. (CLI コマンドの実行に失敗しました。)

Windows Smart コンポーネントのリターンコード

- 0 Smart コンポーネントはインストールされませんでした。詳しくは、ログファイルを参照してください。
- 1 Smart コンポーネントのインストールに成功しました。
- 2 Smart コンポーネントのインストールは成功しましたが、システムを再起動する必要があります。
- 3 必要なハードウェアが存在しないか、ソフトウェアが最新のものが、インストールするものがないためインストールは試みられませんでした。

Linux Smart コンポーネントのリターンコードとファームウェア RPM のリターンコード

- 0 Smart コンポーネントのインストールに成功しました。
- 1 Smart コンポーネントのインストールは成功しましたが、システムを再起動する必要があります。
- 2 必要なハードウェアが存在しないか、ソフトウェアが最新のものが、インストールするものがないためインストールは試みられませんでした。
- 3 Smart コンポーネントはインストールされませんでした。詳しくは、ログファイルを参照してください。
- 4 このリターンコードは、OA を始めとするネットワークベースの装置などのリモートノードにコンポーネントをインストールする場合に表示され、ノードが見つからないことを示します。
- 5 インストールが開始する前に、ユーザーによってインストールが取り消されました。
- 6 依存関係が満たされていないかまたはインストールツールに問題があるため、インストーラーを実行できません。
- 7 インストールツールに問題はありますが、実際のインストール操作が失敗しました。

Linux ソフトウェア RPM のリターンコード

- 0 Linux RPM のインストールに成功しました。
- 1 Linux RPM のインストールに失敗しました。

VMware ESXi Smart コンポーネントのリターンコード

- 0 提供できるコンポーネントのインストールは成功しました。再起動は不要です。
- 1 提供できるコンポーネントのインストールは成功しました。インストールしたコンポーネントを有効にするために、再起動が必要です。
- 2 インストール予定のバージョンと既存のバージョンが一致するため、インストールは試みられませんでした。
- 3 次のいずれかの理由により、インストールは試みられませんでした。
 - インストール予定のバージョンが、インストールされているバージョンより古い
 - サポートされているハードウェアが存在しないか、有効になっていないか、またはインストールを試みることができない状態にある
 - Smart コンポーネントが環境をサポートしない
 - Smart コンポーネントでできないことがない
- 4 このリターンコードは、OA を始めとするネットワークベースの装置などのリモートノードにコンポーネントをインストールする場合に表示され、ノードが見つからないことを示します。
- 5 インストールが開始する前に、ユーザーによってインストールが取り消されました。
- 6 依存関係が満たされていないかまたはインストールツールに問題があるため、インストーラーを実行できません。
- 7 インストールツールに問題はありますが、実際のインストール操作が失敗しました。

5 入力ファイルのパラメーターを使用した CLI

入力ファイルにおけるコンポーネント固有の構成

入力ファイルのコンポーネントの短い名前を使用して、コンポーネント構成を定義します。コンポーネントのファイル名は、リリースで変更される可能性があります。ファイル名を表示するには、SPP のリリースノートを参照してください。

ベースライン内のコンポーネントで使用可能な構成パラメーターのリストを取得するには、次の対話式 CLI コマンドを使用します。

```
hpsum configure --show (Linux) または hpsum configure /show (Windows)。
```

注記: 対話式 CLI はコンポーネントの短い名前をサポートしていません。構成パラメーターを表示するときはコンポーネントの正式名を使用してください。

対話式 CLI の使用方法について詳しくは、『HP Smart Update Manager ユーザーガイド』を参照してください。

```
hpsmh-windows-x86
```

```
    HP System Management Homepage for Window x86
```

```
hpsmh-windows-x64
```

```
    HP System Management Homepage for Windows x64
```

```
hpinsightmgmtwbemprovider-windows-x86
```

```
    HP Insight Management WBEM Providers for Windows Server
```

```
hpinsightmgmtwbemprovider-windows-x64
```

```
    HP Insight Management WBEM Providers for Windows Server x64 Editions
```

```
hpinsightmgmtagent-windows-x86
```

```
    HP Insight Management Agents for Windows Server
```

```
hpinsightmgmtagent-windows-x64
```

```
    HP Insight Management Agents for Windows Server x64 Editions
```

```
hpmouse-linux
```

```
    HP iLO High-Performance Mouse for Linux
```

```
hpsmh-linux-x86
```

```
    HP System Management Homepage for Linux (x86)
```

```
hpsmh-linux-x64
```

```
    HP System Management Homepage for Linux (AMD64/EM64T)
```

```
hpsnmpagent-rhel6-x86
```

```
    HP SNMP Agents for Red Hat Enterprise Linux 6 (x86)
```

```
hpsnmpagent-rhel6-x64
```

```
    HP SNMP Agents for Red Hat Enterprise Linux 6 (AMD64/EM64T)
```

```
hpsnmpagent-sles11-x86
```

```
    HP SNMP Agents for SUSE Linux Enterprise Server 11 (x86)
```

```
hpsnmpagent-sles11-x64
```

```
    HP SNMP Agents for SUSE Linux Enterprise Server 11 (AMD64/EM64T)
```

```
hpsnmpagent-rhel5-x86
```

```
    HP SNMP Agents for Red Hat Enterprise Linux 5 (x86)
```

```
hpsnmpagent-rhel5-x64
```

```
    HP SNMP Agents for Red Hat Enterprise Linux 5 (AMD64/EM64T)
```

```

hpsnmpagent-rhel7-x64
    HP SNMP Agents for Red Hat Enterprise Linux 7 (AMD64/EM64T)
hpsnmpagent-sles12-x64
    HP SNMP Agents for SUSE Linux Enterprise Server 12 (AMD64/EM64T)
hpqlogic-smartsan-windows-x64
    HPE QLogic SmartSAN Enablement Kit for Windows 64 bit Operating Systems
hpqlogic-smartsan-windows-x86
    HPE QLogic SmartSAN Enablement Kit for Windows 32 bit Operating Systems
hpemulex-smartsan-windows-x64
    HPE Emulex SmartSAN Enablement Kit for Windows 64 bit Operating Systems
hpemulex-smartsan-windows-x86
    HPE Emulex SmartSAN Enablement Kit for Windows 32 bit Operating Systems
hpemulex-smartsan-linux
    Emulex SmartSAN Enablement Kit for Linux
hpqlogic-smartsan-linux
    QLogic SmartSAN Enablement Kit for Linux

```

入力ファイルでのコンポーネントの構成

```

[COMPONENT_CONFIG=<component short name>]
[<PARAM_NAME1>]
Value1-line1
Value1-line2
[<PARAM_NAME1>]
Value1-line1
Value1-line2
[END_COMPONENT_CONFIG]

```

コンポーネント cp021995.exe の構成

コンポーネント cp021995.exe は、HP System Management Homepage for Windows x86 コンポーネントです。

```

SOURCEPATH = usr/john/hpsum/Component Configuration/RPM
[COMPONENT_CONFIG=hpsmh-windows-x86]
[<force-overwrite>]
YES
[<admin-group>]
ADMINGRP1 ADMINGRP2
[<CERTNAME_2>]
PRAMS2
[<CERTNAME_2>]
-----BEGIN PGP PUBLIC KEY BLOCK-----
Version: GnuPG v1.4.9 (Darwin)
mQENBErJM6oBCAC7NG5NZ5kiJg+KTTaIDjX9BU8bc7FI5a2zCYc3p9eikJfyyZYM
1flfhs120242309482048039482080 (*) (*) (*) (*) (*) (

```

```
sWbckvcIjJRcAtRliKbAf+KjplbcEIzt+kxmweE5XeKvDftzAD041FGaphIkKcuu
IAzL+XcMWzc3DA==
=+ojz
-----END PGP PUBLIC KEY BLOCK-----
[<OPERATOR-GROUP>]
OPTGRP1 OPTGRP2
[<ANONYMOUS-ACCESS>]
YES
[END_COMPONENT_CONFIG]
[TARGETS]
HOST = LocalHost
UID = hpsumadmin
PWD = *****
[END]
```

コンポーネント cp020718.exe の構成

```
SILENT = YES
FORCEALL = YES
SOURCEPATH = usr/john/SPPGen8Snap6.2013_1119.56/hp/swpackages
COMPONENTSLIST = cp020718.exe
[COMPONENT_CONFIG= hpinsightmgmtagent-windows-x64]
[<pollinterval>]
15 seconds
[<snmpsetsenabled>]
Y
[<remoterebootenabled>]
Y
[END_COMPONENT_CONFIG]
[TARGETS]
HOST = LocalHost
UID = Administrator
PWD = 12iso*help
[END]
```

コンポーネント cp020347.exe の構成

```
SILENT = YES
FORCEALL = YES
SOURCEPATH = usr/john/SPPGen8Snap6.2013_1119.56/hp/swpackages
COMPONENTSLIST = cp020347.exe
[COMPONENT_CONFIG= hpinsightmgmtwbemprovider-windows-x64]
[<config:rwmiuser>]
Useradmin
```

```
[END_COMPONENT_CONFIG]
[TARGETS]
HOST = LocalHost
UID = Administrator
PWD = 12iso*help
[END]
```

コンポーネント hpsmh-linux-x86 の構成

```
SILENT = YES
FORCEALL = YES
SOURCEPATH = /usr/john/SPP/58/hpsum
COMPONENTSLIST = hpsmh-7.4.0-11.i386.rpm
[COMPONENT_CONFIG= hpsmh-linux-x86]
[<FORCE-OVERWRITE>]
YES
[<ADMIN-GROUP>]
ADMINGRP1
[<OPERATOR-GROUP>]
OPTGRP1
[<USER-GROUP>]
USGRP1
[<ANONYMOUS-ACCESSED>]
YES
[<LOCAL-ACCESS-ENABLED>]
YES
[<LOCAL-ACCESS-TYPE>]
Administrator
[<XENAMELIST>]
HPSUM_123
[<PORT-2301-ENABLED>]
YES
[<IP-BINDING>]
YES
[<IP-BINDING-LIST>]
99.99.99.3/255.255.255.0
[<IP-RESTRICTED-LOGINS>]
YES
[<IP-RESTRICTED-EXCLUDE>]
99.99.99.187
[<IP-RESTRICTED-INCLUDE>]
99.99.99.157
```



```
[<TRUSTMODE>]
TrustByAll
[END_COMPONENT_CONFIG]
[TARGETS]
HOST = 15.154.112.81
UID = root
PWD = iso*help
[END]
```

コンポーネント hpsnmpagent-rhel5-x86 の構成

```
SILENT = YES
FORCEALL = YES
COMPONENTSTLIST = <snmp-linux-component>
[COMPONENT_CONFIG= hpsnmpagent-rhel5-x86]
[<CMASSTARTWEBAGENT>]
YES
[<CMASSTARTSTORAGEAGENT>]
YES
[<CMASSTARTNICAGENT>]
YES
[<CMANOTAINTEDKERNEL>]
YES
[<CMALOCALHOSTRWCOMMSTR>]
localhost_rw_com_string
[<CMALOCALHOSTROCOMMSTR>]
localhost_ro_com_string
[<CMAMGMTSTATIONRWIPORDNS>]
15.154.123.123
[<CMAMGMTSTATIONRWCOMMSTR>]
SNMP_rw_authmgmtstncomm
[<CMAMGMTSTATIONROIPORDNS>]
15.154.112.234
[<CMAMGMTSTATIONROCOMMSTR>]
SNMP_ro_authmgmtstncomm
[<CMADEFTRAPCOMMSTR>]
def_snmp_trap_strng
[<CMATRAPDESTINATIONIPORDNS>]
15.156.23.45
[<CMATRAPDESTINATIONCOMMSTR>]
snmptrap_bovestring
[<CMASYSCONTACT>]
```

```
HPSUMind
[<CMASYSLOCATION>]
HPSTSD123
[END_COMPONENT_CONFIG]
[TARGETS]
HOST = LocalHost
UID = root
PWD = iso*help
[END]
```

入力ファイルのエンコードについて

入力ファイルに UTF-8 形式を使用します。UTF-8 では、ダブルバイト文字を使用できます。

エラーのレポート

入力ファイルでエラーが発生すると、HPSUM は、-2 という値（不良パラメーター）を返して終了します。エラーの発生場所や性質は、ログファイル `hpsum_execution_log_<date>_<time>.raw` で調べます。

入力ファイルのパラメーター

入力ファイルを使用する場合は、ターゲットノードおよび使用するベースラインを含める必要があります。ベースラインが含まれているディレクトリで HPSUM を実行する場合、HPSUM はデフォルトでそのディレクトリにあるベースラインを使用します。

セッションの属性

以下の属性はセッションに関連しており、1 回のみ使用できます。

SILENT

設定可能な値：

YES

GUI や対話式 CLI の出力を伴わないサイレントインストールが行われます。データはすべてログファイルに書き込まれます。生成されるプロンプトではすべてデフォルトオプションが使用され、ユーザーの入力なしでインストールが続行されます。

コンポーネントでインストール前に設定情報などの入力が必要な場合は、そのコンポーネントのインストールは失敗し、ログファイルにエラーメッセージが書き込まれます。これを回避するには、`IGNOREERRORS = "FailedDependencies"` パラメーターを含めてノード全体を無視するか、`ONFAILEDDEPENDENCY = "OmitComopnent"` パラメーターを含めてコンポーネントのみを無視します。

注記: NO の値を入力すると、入力ファイルが正しく機能しません。HPSUM は GUI モードを起動しようとしています。

FORCEALL

設定可能な値：

YES、NO

現在インストールされ、選択されているソフトウェアコンポーネント、ファームウェアコンポーネント、およびバンドルを再書き込みまたはダウングレードします。

FORCEROM

設定可能な値：

YES、NO

現在インストールされ、選択されているファームウェアコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードします。

FORCESOFTWARE

設定可能な値：

YES、NO

現在インストールされ、選択されているソフトウェアコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードします。

FORCEBUNDLE

設定可能な値：

YES、デフォルト = NO

選択されているバンドルに含まれ、現在インストールされているコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードします。

DOWNGRADE

設定可能な値：

YES、NO

現在インストールされているバージョンよりも低いバージョンを利用できる、インストール対象のコンポーネントを選択します。これは、アップグレードとは別の機能です。rewriteと組み合わせることができます。

REWRITE

設定可能な値：

YES、デフォルト = NO

インストールされているバージョンと同じバージョンを利用できる、インストール対象のコンポーネントを選択します。これは、アップグレードとは別の機能です。downgradeと組み合わせることができます。

REBOOTALLOWED

設定可能な値：

YES、NO

必要に応じて再起動できます。

REBOOTALWAYS

設定可能な値：

YES、NO

サーバーは次の条件で強制的に再起動されます。

REBOOTALWAYS オプションを選択したか、入力ファイル引数として指定した場合。

インストール用に選択されたすべてのコンポーネントが正常にインストールされた場合。

REBOOTMESSAGE

設定可能な値：

任意の文字列（256 文字以内）

再起動の前に表示するメッセージを作成します。

REBOOTDELAY

設定可能な値：

秒数

再起動する前の待機時間です。

COMPONENTSLIST

設定可能な値：

ファイル拡張子 (.exe、.rpm、または.scexe) の付いたコンポーネント名更新するコンポーネントのリストを制限します。

BUNDLESLIST

設定可能な値：

バンドルファイル名

フィルタリングするバンドル XML ファイルのリストを制限します。

ALLOWUPDATEBUNDLE

設定可能な値：

YES、NO

SPP またはバンドルで定義されるコンポーネントの新しいバージョンをインストールできるようにするフィルタースイッチです。

これらのコンポーネントを、バンドルに付属している可能性があるものより古いバージョンのコンポーネントを置き換えることができます。デフォルトの値は YES です。

IMPORT_CONFIGURATION=<path>

これは、指定したベースライン内のコンポーネントのコンポーネント構成設定を含むディレクトリを示します。ベースライン内のコンポーネント構成は、インポートしたコンポーネント構成によって上書きされます。

SKIPTARGET

設定可能な値：

YES (デフォルト)、NO

デフォルト設定では、リモートノードで実行中のリモートセッションを HP SUM が認識した場合、リモートノードをスキップします。

リモートノードで既存の HP SUM セッションが進行しているときの動作を定義します。

既存の HP SUM セッションがある場合にホストをスキップするには、このパラメーターを使用します。NO は、進行中のセッションを無効化し、リモートホストのインストールフレームワークを再初期化します。

IGNOREERRORS

このパラメーターにより、インストールが継続され、エラーが無視されます。

設定可能な値：

ServerNotFound - ファームウェアまたはソフトウェアを複数のリモートホストに同時に展開する場合に、アクティブではない、または利用できないリモートホストをバイパスします。

BadPassword - 提供された認証応報が誤っていると報告されたリモートノードをバイパスし、他のノードの処理を続行します。

FailedDependencies - 失敗した依存状態のあるすべてのノードを無視し、準備ができているノードによってプロセスが進められます。

注記: これは、ONFAILEDDEPENDENCY = OmitComponent または Force を使用して上書きすることができます。

USELATEST

設定可能な値：

YES (デフォルト)、NO

バンドルで使用するフィルタースイッチです。コマンドラインで複数のバージョンのバンドルをリストする場合は、バンドルの最新バージョンを使用することができます。

コマンドラインでバンドルが指定されておらず、ディレクトリ内で複数のバンドルが使用可能である場合、このパラメーターを追加すると、最新バージョンのバンドルを使用するように HP SUM に指示します。

DRYRUN

設定可能な値：

YES、NO

テスト実行用にインストールをシミュレーションします。何もインストールされません。

OPTIONS

設定可能な値：

1つ以上の CLI スイッチ

入力ファイル内にある、構成設定を上書きする HP SUM CLI オプションを指定します。カンマを使用してパラメーターを区切ります。

LDU で以前にサポートされた LSOPTIONS パラメーターに代わるパラメーターです。

NOMGMT

設定可能な値：

YES

AMS および WBEM Provider を使用するコンポーネントを、[コンポーネントの選択] 画面でオプションのアップデートとして指定します。

サイレントモードでは、HP SUM は、AMS または WBEM Provider を更新しません。

❶ **重要：** HP SUM の GUI モードで設定できるのは SNMP のみです。

USEWMI

Windows のみ

設定可能な値：

YES

WMI プロトコルを使用してコンポーネントの可用性を指定し、HP SUM がそのコンポーネントをインストール用に選択できるようにします。

これらのコンポーネントはデフォルトではオプションで、このパラメーターを使用しない場合はインストールされません。

USEAMS

設定可能な値：

YES

AMS Agentless Management サービスコンポーネントの可用性を指定し、HP SUM がそのコンポーネントをインストール用に選択できるようにします。

このオプションは、Gen8 以降のサーバーに適用されます。ProLiant G7 以前のサーバーにこのパラメーターを設定すると、このパラメーターは無視されます。

デフォルトでは、これらのコンポーネントは Gen8 以降のサーバーのみにインストールされます。このパラメーターは、Integrity サーバーには適用されません。

USESNMP

設定可能な値：

YES

SNMP プロトコルを使用してコンポーネントの可用性を指定し、HP SUM がそのコンポーネントをインストール用に選択できるようにします。

これらのコンポーネントはデフォルトではオプションで、このパラメーターを使用しない場合はインストールされません。このパラメーターは、Integrity サーバーには適用されません。

HP SUM は、SNMP エージェントがインストールされるときに SMH テンプレートをインストールします。

ROMONLY

設定可能な値：

YES、NO

インストール対象とみなされるコンポーネントをファームウェアコンポーネントのみに制限します。softwareonly と一緒に使用することはできません。softwareonly と romonly のどちらも使用しない場合、すべてのコンポーネントがインストール対象となる可能性があると考えられます。

SOFTWAREONLY

設定可能な値：

YES、NO

インストール対象とみなされるコンポーネントをソフトウェアコンポーネントのみに制限します。romonly と一緒に使用することはできません。softwareonly と romonly のどちらも使用しない場合、すべてのコンポーネントがインストール対象となる可能性があると考えられます。

USECURRENTCREDENTIAL

設定可能な値：

YES、NO

ローカルホストの認証情報を使用してノードにアクセスでき、ノードごとに明示的にユーザー名とパスワードを入力する必要がなくなります。

ただし、アクセス対象のノードで現在の認証情報が有効であることが前提です（Windows にのみ適用）。

DELETEINPUTFILE

設定可能な値：

YES、NO（デフォルト）

HP SUM に、入力ファイルを読み取り後に削除するように指示します。

ONFAILEDDEPENDENCY

失敗した依存状態がコンポーネントに発生した場合のプロセスの進め方を HP SUM に指示します。

設定可能な値：

OmitHost（デフォルト） - ホストは障害状態に設定され、HP SUM はインストールを試行しません。

OmitComponent - 影響を受けるコンポーネントの選択が解除され、失敗した依存状態が発生していない更新によってプロセスが進められます。

Force - 依存状態に障害があっても、すべての更新が試行されます。

HOST

設定可能な値：

IP アドレス、DNS 名

リモートサーバー、リモートの iLO NIC ポート、c-Class BladeSystem 用の Virtual Connect Ethernet もしくはファイバーチャネルモジュール、または BladeSystem OA の IP アドレスまたは DNS 名です。

エンクロージャーに 2 つの OA がある場合、このパラメーターはアクティブな OA です。IP アドレスを指定する場合は、IPv4 または IPv6 形式を使用します。

このパラメーターは、HP SUM GUI で定義済みのグループ名を指定します。

LOGFILENAME = "path"

設定可能な値：

ログファイル名

HP SUM または BladeSystem c-Class OA フラッシュユーティリティからの出力をデフォルトディレクトリ以外のディレクトリにリダイレクトします。

Windows コンポーネントの場合、デフォルト位置は %SYSTEMDRIVE%\CPQSYSTEM\hp\log<netAddress> で、リダイレクト先は <path>\hp\log\<netAddress> です。

HP SUM は、コンポーネントを処理するときにディレクトリ %SYSTEMDRIVE%\CPQSYSTEM\を作成します。HP SUM は、リダイレクトされたディレクトリにファイル hpsum_log.txt、hpsum_detail_log.txt、および HPSUM_InstallDetails.txt のみを書き込みます。その他のログはすべて、デフォルトディレクトリに書き込みます。

Linux コンポーネントの場合は、デフォルト位置は /var/hp/log/<netAddress> で、リダイレクト先は <path>/hp/log/<netAddress> です。

OAUID

設定可能な値：

ユーザーは、各 HOST 変数の前に OAUID 変数を複数回定義することができます。

VC に関連する OA のユーザー名認証情報を提供します。[TARGETS] セクションの HOST 変数の前にこれらの変数の値を定義しなければなりません。このパラメーターは VC ファームウェアに対してのみ適用されます。

OAUSER または OAUSERNAME を使用することもできます。

OAPWD

設定可能な値：

ユーザーは、各 HOST 変数の前に OAPWD 変数を複数回定義することができます。

VC に関連する OA のパスワード認証情報を提供します。[TARGETS] セクションの HOST 変数の前にこれらの変数の値を定義しなければなりません。このパラメーターは VC ファームウェアに対してのみ適用されます。

OAPASSWORD を使用することもできます。

IGNOREWARNINGS

設定可能な値：

YES、NO

HP SUM がノードに関する警告を受けた後でも、インストールの続行が許可されます。一部の警告は、次のとおりです。

Serviceguard クラスターのアクティブメンバー

TPM の警告

HP-UX ブートディスク

Superdome 2/X 固有の警告

UPDATETYPE

設定可能な値：

ALL、COMPLEX、PARTITIONS

この引数は、どの Superdome 2/X ファームウェアを更新するかを決定します。

DEVICELIST

設定可能な値：

例：DEVICELIST=npa1,blade1/1

パラメーターの間にスペースを入れないでください。

Superdome 2/X サーバーの場合のみ、UPDATETYPE を PARTITIONS に設定するときこの引数を使用します。この引数は、全部のパーティションを更新したくない場合に、更新するパーティションやブレードを指定します。有効なデバイスは、npar(number) と blade(enc)/(bay) です。

REBOOTLIST

設定可能な値：

例：REBOOTLIST=npar1,npar2

パラメーターの間にスペースを入れないでください。

Superdome 2/X サーバーの場合のみ、この引数を UPDATETYPE= ALL または UPDATETYPE= PARTITIONS 引数とともに使用します。パーティションファームウェアの更新後に再起動するパーティションを指定します。有効な npar 値は npar(number) です。

REPORT

設定可能な値：

YES、NO

ノードの概要のレポートリストとレポジトリ内のコンポーネントがノードに与える影響（たとえば、各コンポーネントがノードに適用されるかどうか）に関する説明を生成します。レポートは HTML および XML で生成され、HPSUM_Report_< 日付 >_< 時刻 >.html および HPSUM_Report_< 日付 >_< 時刻 >.xml の形式でファイルに名前が付けられます。

HP SUM は、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。更新を展開しません。

HP SUM がレポートを保存する場所については、「[レポートパラメーター](#)」(38 ページ)を参照してください。

INVENTORY_REPORT

設定可能な値：

YES、NO

指定されたレポジトリ内のコンポーネントをリスト表示するレポートを生成します。レポートは HTML および XML で生成され、HPSUM_Inventory_Report_< 日付 >_< 時刻 >.html および HPSUM_Inventory_Report_< 日付 >_< 時刻 >.xml の形式でファイルに名前が付けられます。

HP SUM は、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。更新を展開しません。

HP SUM がレポートを保存する場所については、「[レポートパラメーター](#)」(38 ページ)を参照してください。

FIRMWARE_REPORT

設定可能な値：

YES、NO

インストール済みファームウェアとインストール済みソフトウェアのリスト、およびノードの詳細を示すレポートを生成します。レポートは HTML および XML で生成され、HPSUM_Firmware_Report.html および fwreport.xml (HPSUM_Firmware_Report_< 日付 >_< 時刻 > という名前のディレクトリ内) の形式でファイルに名前が付けられます。

HP SUM は、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。更新を展開しません。

HP SUM がレポートを保存する場所については、「[レポートパラメーター](#)」(38 ページ)を参照してください。

DEPENDENCY_REPORT

設定可能な値：

YES、NO

すべてのノードの失敗した依存関係をリスト表示するレポートを生成します。

HP SUM は、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。更新を展開しません。

HP SUM がレポートを保存する場所については、「[レポートパラメーター](#)」(38 ページ)を参照してください。

INSTALLED_REPORT

設定可能な値：

YES、NO

すべてのノードにインストールされているすべてのファームウェア、ソフトウェア、およびドライババージョンをリスト表示するレポートが生成されます。

HPSUM は、インベントリを実行し、更新を展開し、レポートを生成してから終了します。

HP SUM がレポートを保存する場所については、「[レポートパラメーター](#)」(38 ページ)を参照してください。

COMBINED_REPORT

設定可能な値：

YES、NO

このレポートは、1つのファイルにすべてのレポートタイプを生成します。

HPSUM は、インベントリを実行し、更新を展開し、レポートを生成してから終了します。

HP SUM がレポートを保存する場所については、「[レポートパラメーター](#)」(38 ページ)を参照してください。

REPORTDIR

レポートの保存先ディレクトリを指定するには、すべてのレポートコマンドでこのパラメーターを使用します。

TPMBYPASS

TPM エラーをバイパスするには、このパラメーターを使用します。

ノード属性

次の属性はノードとベースラインに関連しており、ノードまたはベースラインごとにこれらの属性を使用します。

TARGETTYPE

ノードのタイプ (--targettype Linux (Linux)、/targettype Windows (Windows)) を指定します。これにより、インベントリプロセスを短縮できます。

有効なノードのタイプは次のとおりです。

Windows

Linux

HPUX

fc_switch

OA

sd2

iLO

virtual_connect - プライマリ VC Enet モジュールの IP アドレスを使用します。

sas_switch

VMware

Moonshot

コマンドでグループを指定すると、HP SUM は、そのグループ内のすべてのノードが同じノードタイプであると見なします。

SOURCEPATH

設定可能な値：

Directory path、UNC location

単一のローカルのベースラインパスまたはUNC ファイル共有を指定します。この操作により、ローカルまたはデフォルトベースラインの代わりに、指定されたパスからインベントリが作成されます。

UNC_USERNAME

設定可能な値：

<username>

SOURCEPATH で指定した UNC の場所のユーザー名認証情報を指定します。

UNC_PASSWORD

設定可能な値：

<password>

UNC の場所にアクセスするためのパスワードを指定します。

SWITCH_USERNAME

設定可能な値：

<username>

Moonshot スイッチにアクセスするユーザー名を指定します。

SWITCH_PASSWORD

設定可能な値：

<password>

Moonshot スイッチにアクセスするためのパスワードを指定します。

SWITCH_ENABLE

設定可能な値：

<enable>

Moonshot スイッチへのアクセスを提供します。

SWITCHB_USERNAME

設定可能な値：

<username>

B Moonshot スイッチにアクセスするユーザー名を指定します。

SWITCHB_PASSWORD

設定可能な値：

<password>

B Moonshot スイッチにアクセスするためのパスワードを指定します。

UID

設定可能な値：

<username>

ノードにログインするためのユーザー ID を指定します。

PWD

設定可能な値：

<password>

UID に指定されたユーザー ID のパスワードを使用します。

ノードにログインするためのパスワードを指定します。

USE_SSHKEY

設定可能な値：

Yes、No

SSH PEM 形式のキーファイルを Linux および HP-UX ノードに使用できます。

PRIVATEKEYFILE

設定可能な値：

<c:/keyfile_directory/ssh.pem>

プライベートキーファイルへのフルパスを指定します。

USE_SSHKEY パラメーターとともに使用します。

PASSPHRASE

設定可能な値：

<passphrase=12345>

USE_SSHKEY および PRIVATEKEYFILE パラメーターとともに使用します。

SUUSERNAME

設定可能な値：

<superusername>

スーパーユーザーのユーザー名を指定するには、この引数を使用します。

SUPASSWORD

設定可能な値：

<superuserpassword>

USESUDO

設定可能な値：

Yes、No

sudo コマンドを使用できます。

リモートノードの username と password が sudo ユーザーの認証情報であることを指定します。入力ファイルで username および password とともに USESUDO を指定すると、username および password は sudo の認証情報であるとみなされます。

VCENTER_HOST

VMware vCenter の IP アドレスを入力します。

ロックダウンモードになっている VMware vCenter でチケットを生成するには、VMware vCenter でこのコマンドを使用します。

VCENTER_USERNAME

ユーザー名を入力し、VMware vCenter にログインします。

詳しくは、VCENTER_HOST を参照してください。

VCENTER_PASSWORD

パスワードを入力し、VMware vCenter にログインします。

詳しくは、VCENTER_HOST を参照してください。

ETHACTORDER

VC-Enet モジュールの有効化順序を決めるには、このコマンドを使用します。

設定可能な値：

ODDEVEN (デフォルト)

PARALLEL

SERIAL

MANUAL

FCACTORDER

VC-FC の有効化順序を決めるには、このコマンドを使用します。

設定可能な値：

ODDEVEN (デフォルト)

PARALLEL

SERIAL

MANUAL

ETHACTDELAY

VC-Enet モジュールの有効化または再起動の間の時間を分単位で決めるには、このコマンドを使用します。

設定可能な値：

0 (デフォルト) ~60 分。

FCACTDELAY

VC-FC モジュールの有効化または再起動の間に待機する時間を決めるには、このコマンドを使用します。

設定可能な値：

0 (デフォルト) ~60 分。

SDR からの HP SUM およびコンポーネントのダウンロード

Linux システムを使用している場合は、HP SUM を RPM として SDR からダウンロードできます。このため、一般的な YUM コマンドを使用して、HP SUM およびコンポーネントを SDR からダウンロードし、インストールすることができます。RPM として HP SUM をダウンロードしてインストールする方法については詳しくは、次の URL にある『Linux best practices using HP Service Pack for ProLiant (SPP) and Software Delivery Repository (SDR)』を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/spp/documentation>

SDR の使用については、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/sdr> (英語)

6 トラブルシューティング

ログファイルの収集

HP SUM は、内部プロセスおよびデバッグ情報を含む一連のデバッグログファイルを生成します。これらのログは、HP SUM に関する問題の判別に役立てることができます。ログファイルは、/tmp/HPSUM ディレクトリ (Linux) および %temp%\HPSUM ディレクトリ (Windows) に格納されます。HP SUM は、HP SUM がアップデートする機能およびノードごとにログファイルを作成します。

HP SUM は、GatherLogs.bat (Windows) または Gatherlogs.sh (Linux) という名前のユーティリティを備えており、すべてのログを使用して圧縮ファイル (Windows では.zip、Linux では tar.gz) を作成します。ログファイルを参照する必要がある場合は、このユーティリティを実行して 1 つのファイルにすべてのログを収集できます。

HP SUM は、以下の場所にログを格納します。

ユーザーログ

Windows ディレクトリ : C:\cpqsystem\hp\log

Linux ディレクトリ : /var/hp/log

デバッグログ

ローカルの Windows ディレクトリ %temp%\HPSUM (通常 appdata 内)。

リモートの Windows ディレクトリ : admin\$\temp (通常 C:\windows\temp\HPSUM) 。

Linux ディレクトリ : /tmp/HPSUM

必要に応じて、HP SUM バイナリのローカルコピー *

Windows ディレクトリ : %temp%\localhpsum

Linux ディレクトリ : /tmp/localhpsum

HP SUM では、HP SUM がネットワークマウント共有または読み取り専用の場所から起動されるときに、バイナリおよびサポートファイルのローカルコピーが作成されます。これにより、アップデート中に HP SUM へのアクセスが中断されなくなります。

リモートノードのファイル

Windows ディレクトリ : admin\$\temp

Linux ディレクトリ : /tmp/HPSUM

注記: Linux システムの上記の場所でログが見つからない場合は、ディレクトリ /var/cpq/Component.log を確認してください。

HP SUM ログの内容

- ユーザーログ

場所 : HPSUM\binarylog\.log

- HP SUM コマンドの最初の解析を実行します。
- HP SUM サービスを起動します。
- サービスにセッションを作成し、ユーザーをログインします。
- セッションで送受信したコマンドの詳細を表示します。
- CLI/Inputfile/interactive CLI モード : 各コマンドの詳細をコマンドシーケンスの順に示します。
- GUI : サービスにログインしているセッションがないか監視し、あればシャットダウンします。

- ベースラインログ
場所：HPSUM\baseline\baseline.log
 - ベースライン内のコンポーネントのインベントリ。
 - コンポーネントの詳細のソース。
 - インベントリ後の各コンポーネントのステータス。
 - カスタムベースライン/ISO 作成の詳細。
 - ベースライン詳細は、Web からダウンロードされます。
 - ノードログ
場所：HPSUM\ - 調査後のノードの対話の詳細。
 - 各コンポーネントがノードに適用可能または不可である理由の詳細。
 - ノードに適用可能なコンポーネント、インストール済みおよび使用可能なバージョン、依存関係の障害、その他の詳細のテーブル。
 - 複数のオプションが送信された場合（たとえば、強制、ソフトウェアのみ、use_ams）、複数のテーブルが表示されます。
 - 各コンポーネントの展開の概要と戻り値。
 - 展開後のノードの全体的なステータス。
- インベントリログ
場所：HPSUM\このログは、ノードのインベントリプロセスの詳細を示します。
- 展開ログ
場所：HPSUM\- ノードでの展開プロセスの詳細。
- コンポーネントごとの詳細。
- コア検出口グ
場所：HPSUM\- インベントリ中に HP SUM が検出した内容の詳細。
- システムのタイプとバージョン、システム上で検出されたソフトウェアとドライバー。
- 自己検出コンポーネントを必要としないファームウェアの詳細。
- コンポーネント自動検出口グ
場所：HPSUM\HP SUM は、特定のハードウェアに組み込まれた情報についてシステムに問い合わせ、詳細ファイルを出力します。
 - 自己検出コンポーネントの出力詳細。

- HPSUMは、自己検出コンポーネントがシステムに適用可能であると判断した場合、以下のファイルを生成します。
 - Windows : <comp_name> /s /d <comp_name>_disc.xml
 - Linux : <comp_name> -s -s <comp_name>_disc.xml
- ログには、項目ごとに 1 つの <device> エントリーが含まれます。
- ログに複数の <fw_item> エントリーが含まれる可能性があります。
- HP SUM ログ

Windows の場所 : C:\cpqsystem\hp\log\<ip>\hpsum_log.txt

Linux の場所 : /var/cpq/hp/log/<ip>/hpsum_log.txt

 - 指定された <ip> アドレスのノードに関する上位レベルのユーザーログ。
 - HPSUMに複数のセッションが存在する場合、同じログファイルに書き込まれます。
 - 実行された手順とシステムにインストールされているコンポーネントの概要が含まれます。
 - ノードのリターンコードが含まれます。
- HP SUM の詳細ログ

Windows の場所 : C:\cpqsystem\hp\log\<ip>\hpsum_detail_log.txt

Linux の場所 : /var/cpq/hp/log/<ip>/hpsum_detail_log.txt

 - IP アドレスのノードに関する詳細レベルのユーザーログ。
 - HPSUMに複数のセッションが存在する場合、同じログファイルに書き込まれます。
 - ノードで実行される各コンポーネントからの完全な出力が含まれます。
 - 各コンポーネントとそのノードのリターンコードが含まれます。
- HP SUM インストール詳細ログ

Windows の場所 : C:\cpqsystem\hp\log\<ip>\HPSUM_InstallDetails.xml

Linux の場所 : /var/cpq/hp/log/<ip>/HPSUM_InstallDetails_log.txt

 - 最後に実行したインストールのユーザーのステータスに関する XML バージョン。
 - 全体的なステータスの詳細が含まれます。
 - インストールされた各コンポーネントの詳細が含まれます。
- cpqsetup ログ

Windows の場所 : C:\cpqsystem\log\cpqsetup.log

Linux の場所 : /var/cpq/log/Component.log

 - 各コンポーネントの自動検出と展開済みインストールについての詳細が含まれます。
- 個々のコンポーネントによって作成されるその他のログ

Windows の場所 : C:\cpqsystem\log*.log

Linux の場所 : /var/cpq/log/*.log

 - Flash.debug.log

- `Verbose.log`
- `Cpxxxxxxx.log`

HP SUM オンラインモードでのログファイルの収集

`gatherlogs` ユーティリティは、ディレクトリ `hp/swpackages` 内にあります。ご使用のオペレーティングシステム用のバージョンを実行します。このユーティリティは、すべてのユーザーログとデバッグログ、および一部のディレクトリ情報を収集し、それらを1つのファイルにまとめます。一時停止せずにユーティリティを実行するには、`gatherlogs -s` を実行します。

HP SUM オフラインモードでのログファイルの収集

1. HP SUM をオフラインモードで起動します。
2. **CTRL-ALT-D-B-X** を押して、HP SUM GUI からコマンドプロンプトを起動します。

注記: 約 30 秒待つと、HP SUM の GUI ウィンドウ上にコマンドプロンプトが表示されます。

3. ディレクトリを HP SUM の実行元ディレクトリに切り替えます（例：`cd /mnt/bootdevice/SPP2012060B/hp/swpackages`）。
4. `./gatherlogs.sh` と入力して、HP SUM のログを収集します。すべてのログは、HP SUM が格納されているディレクトリ内、または一時ディレクトリ内（HP SUM のディレクトリが読み取り専用の場合）の `.tar.gz` ファイルに収集されます。ログファイルの名前は、`HPSUM_Logs_$(日付時刻).tar` です。
5. ログを別のコンピューターで参照する場合は、リムーバブルメディアに保存します。

sudo 認証情報を使用するときに HP SUM が応答しない

症状：

`sudo` ユーザー認証情報を使用すると、HP SUM がノードから応答を受け取りません。

操作

ユーザー認証情報がノードの管理者グループの一部であることを確認します。

インベントリの実行中に HP SUM が応答しない

症状：

ノードまたはノードのグループでインベントリを実行するときに、HP SUM が応答しません。

原因

ノードの数またはベースラインのサイズが原因で、HP SUM がシステムまたはネットワークのリソースを使用し過ぎている可能性があります。

操作

インベントリを一度に実行するノードの数を減らすか、小さいカスタムベースラインを作成します。

ノードでコマンド `open_firewall` が動作しない

症状：

HP SUM がノードでファイアウォールを開くことができません。

原因

HP SUM では一部のインスタンスのファイアウォールを開くことができません。これには、他社製ファイアウォールアプリケーション、Linux iptables DROP エントリ、ルールが複雑なファイアウォールが含まれます。

操作

ファイアウォールを手動で開いてから、HP SUM でノードを管理することができます。

認証情報が誤っているかどうか HP SUM で示されない

症状：

HP SUM によってアップデートがリモートノードに展開されず、誤ったユーザー認証情報が指定されていることも示されません。

原因

HP SUM に正しいユーザー認証情報が指定されていない可能性があります。

操作

HP SUM がアップデートをリモートノードに展開せず、リモートノードのログファイルを作成しない場合は、HP SUM デバッグログで詳細を確認します。デフォルトのログファイルのパスは、次のとおりです。

- Windows : %temp%\HPSUM\- Linux : /tmp/HPSUM/<node_ip>/scouting.log

HP SUM にドライブの空き容量が 0 であると表示される

症状：

使用可能なディスク容量が 4 TB より大きい場合に、HP SUM にディスクの空き容量がないという警告が表示されます。

操作

- GUI モードでは、[展開] 画面で 警告を無視を選択します。
- CLI モードでは、/ignore_warnings パラメーターを含めます。
- 入力ファイルのモードでは、パラメーター IGNOREWARNINGS=YES を含めます。

レポートが生成されない

症状：

HP SUM がノードのレポートを生成しません。

原因

ノードがオフラインであるか、HP SUM がリモートノードに接続できません。

操作

HP SUM でノードに ping を送信できることを確認してください。

HP SUM がコンポーネントを展開しない

症状：

複数のコンポーネントを呼び出す 1 回の HP SUM CLI コマンドで、コンポーネントが展開されません。

原因

HP SUM が使用しているベースラインに、指定したコンポーネントが含まれていません。

操作

コンポーネントを 1 つのディレクトリにコピーし、`/use_location` コマンドを使用します。

原因

コマンドにリストしたコンポーネントの数が多すぎるか、コンポーネント名が正しくありません。

操作

入力ファイルモードを使用し、コンポーネントのファイル名が正しいことを確認してください。

7 サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスを受けるには、Web サイト「Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide」に移動します。
<http://www.hpe.com/assistance>
- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトに移動します。
<http://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ
- 増設した製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。製品のドキュメントを確認し、推奨されるソフトウェアアップデートの方法を特定します。
 - 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかに移動します。
 - Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **[メールニュース配信登録]** ページ：
<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>
 - Software Depot の Web サイト：
<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>
 - お客様の資格を表示したりアップデートしたり、契約や保証をお客様のプロファイルにリンクしたりするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **[More Information on Access to Support Materials]** ページに移動します。
<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>
-
- ① **重要:** 一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするとき製品に資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HP パスポートをセットアップしておいてください。
-

Web サイト

Web サイト	リンク
Hewlett Packard Enterprise Information Library	http://www.hpe.com/info/enterprise/docs
HP Smart Update Manager Information Library	http://www.hpe.com/info/hpsum/documentation
HP Smart Update Manager の Web サイト	http://www.hpe.com/info/hpsum (英語)
Software Download Repository	http://www.hpe.com/support/SDR-SUM (英語)
『Manage HP Integrity Servers Firmware』オンラインホワイトペーパー	http://www.hpe.com/info/smartupdate/integrity (英語)
HPE OneView Information Library	http://www.hpe.com/info/ovvcenter/docs
SPP Information Library	http://www.hpe.com/info/spp/documentation
HPE サポートセンター - Hewlett Packard Enterprise	http://www.hpe.com/support/hpesc
Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide	http://www.hpe.com/assistance
サブスクリプションサービス/サポートのアラート	http://www.hpe.com/support/e-updates-ja
Software Depot	http://www.hpe.com/support/softwaredepot
Insight Remote Support	http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs

リモートサポート（HPE 通報サービス）

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

デバイスサポートについて詳しくは、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs>

用語集

AMS	Agentless Management Service
CLI	command-line Interface。コマンドラインインターフェイス
CPLD	complex programmable logic device
DNS	domain name system。ドメインネームシステム
iLO	Integrated Lights-Out
ISP	Integrity Support Pack
MSB	Maintenance Supplement Bundle。メンテナンスサブリメントバンドル
OA	Onboard Administrator
RILOE II	Remote Insight Lights-Out Edition II。リモート Insight ボード Lights-Out Edition II
SDR	Software Delivery Repository
SPP	Service Pack for ProLiant
SSH	Secure Shell
SSL	Secure Sockets Layer
TPM	Trusted Platform Module
UNC	Universal Naming Convention
URI	Uniform resource identifier の略で、一般的に Web アドレスと呼ばれる
VC	Virtual Connect
WBEM	Web-Based Enterprise Management
WMI	Windows Management Instrumentation
位置	ベースラインアップデート用のネットワークディレクトリ
インベントリ	HP SUM がベースラインまたはノードの内容を確認するプロセス
オフライン	サーバーを小さな Linux カーネルにブートして、HP SUM を起動してアップデートを展開します。オフラインモードでは、インストール済みオペレーティングシステムは使用されません。
オンライン	サーバーのインストール済みオペレーティングシステムを使用して、HP SUM を起動してアップデートを展開します。
ガイドアップデート	ローカルノードを更新するための自動化されたメソッド、またはウィザード形式のメソッド
調査	HP SUM がノードタイプを決定するプロセス
展開	コンポーネントのアップデートファイルをノードにインストールして、HP SUM がアップデートプロセスを開始するプロセス
ノード	アップデートするハードウェア（サーバー、iLO、NIC など）
分析	アップデートを展開する前に、すべての依存関係を HP SUM が確認するプロセス
ベースライン	ハードウェアのアップデートのセット

索引

C

- CLI (コマンドラインインターフェイス), 8
 - 構文, 8
 - 引数, 21

H

- Hewlett Packard Enterprise への問い合わせ, 67

L

- Linux RPM
 - リターンコード, 44
- Linux Smart コンポーネント
 - リターンコード, 43

V

- VMware ESXi
 - リターンコード, 44

W

- Web サイト, 68
- Windows Smart コンポーネント
 - リターンコード, 43

あ

- アクセス
 - アップデート, 67
- アップデート
 - アクセス, 67

こ

- 構文
 - CLI (コマンドラインインターフェイス), 8

さ

- サポート
 - Hewlett Packard Enterprise, 67

た

- ダブルバイト文字
 - ファイルのエンコード, 50

と

- トラブルシューティング
 - トラブルシューティング, 61

に

- 入力ファイルの作成, 9
- 入力ファイルのパラメーター, 50
- 入力ファイルパラメーター
 - 形式とルール, 9

は

- パラメーター
 - エラーのレポート, 50
 - 入力ファイル, 50

ひ

- 引数
 - CLI (コマンドラインインターフェイス), 21

ふ

- ファイル、入力の作成
 - 形式とルール, 9
- ファイル、入力ファイルの作成
 - 入力ファイル, 9

り

- リターンコード
 - Linux RPM, 44
 - Linux Smart コンポーネント, 43
 - VMware ESXi のリターンコード, 44
 - Windows Smart コンポーネント, 43
 - リターンコード, 42
- リモートサポート, 68